
熊谷市

北島遺跡Ⅹ

熊谷スポーツ文化公園建設事業関係

埋蔵文化財発掘調査報告書

—Ⅴ—

〈第2分冊〉

2005

埼玉 県

財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

目次

口絵

序

例言

例則

〈第1分冊〉

I 発掘調査の概要	1
1. 調査に至るまでの経過	1
2. 発掘・整理報告書作成の経過	2
3. 発掘調査・整理・報告書刊行の組織	4
II 遺跡の立地と環境	6
III 遺跡の概要	11
IV 遺構と遺物	67
1. 住居跡	67
(1) 方形環濠と第1群の住居跡	67
(2) 第2群の住居跡	182
(3) 第3群の住居跡	219
(4) 第4群の住居跡	243
(5) 第5群の住居跡	245
(6) 第6群の住居跡	253

〈第2分冊〉

2. 方形周溝墓	271
3. 木棺墓	310
4. 土墳	314
5. 溝跡	363
6. その他の遺物	394
(1) グリッドピット出土遺物	394
(2) グリッド遺物	396
(3) その他の時期の遺構への混入遺物	406
(4) 表採遺物	414
V 発掘調査の成果と課題	415

写真図版

挿図目次

〈第1分冊〉

第1図	埼玉県の地形	6
第2図	周辺の遺跡	7
第3図	北島遺跡の発掘調査地点分布図	12
第4図	北島遺跡第19地点全体図区制	15
第5図	北島遺跡第19地点全体図〈1〉	16
第6図	北島遺跡第19地点全体図〈2〉	17
第7図	北島遺跡第19地点全体図〈3〉	18
第8図	北島遺跡第19地点全体図〈4〉	19
第9図	遺構全体図(1)	20
第10図	遺構全体図(2)	21
第11図	遺構全体図(3)	22
第12図	遺構全体図(4)	23
第13図	遺構全体図(5)	24
第14図	遺構全体図(6)	25
第15図	遺構全体図(7)	26
第16図	遺構全体図(8)	27
第17図	遺構全体図(9)	28
第18図	遺構全体図(10)	29
第19図	遺構全体図(11)	30
第20図	遺構全体図(12)	31
第21図	遺構全体図(13)	32
第22図	遺構全体図(14)	33
第23図	遺構全体図(15)	34
第24図	遺構全体図(16)	35
第25図	遺構全体図(17)	36
第26図	遺構全体図(18)	37
第27図	遺構全体図(19)	38
第28図	遺構全体図(20)	39
第29図	遺構全体図(21)	40
第30図	遺構全体図(22)	41
第31図	遺構全体図(23)	42
第32図	遺構全体図(24)	43
第33図	遺構全体図(25)	44
第34図	遺構全体図(26)	45

第35図	遺構全体図(27)	46
第36図	遺構全体図(28)	47
第37図	遺構全体図(29)	48
第38図	遺構全体図(30)	49
第39図	遺構全体図(31)	50
第40図	遺構全体図(32)	51
第41図	遺構全体図(33)	52
第42図	遺構全体図(34)	53
第43図	遺構全体図(35)	54
第44図	遺構全体図(36)	55
第45図	遺構全体図(37)	56
第46図	遺構全体図(38)	57
第47図	遺構全体図(39)	58
第48図	遺構全体図(40)	59
第49図	第1群の住居跡分布図	68
第50図	第464号溝跡(1)	69
第51図	第464号溝跡(2)	70
第52図	第464号溝跡(3)	71
第53図	第464号溝跡(4)	72
第54図	第464号溝跡(5)	73
第55図	第464号溝跡(6)	74
第56図	第464号溝跡(7)	75
第57図	第464号溝跡(8)	76
第58図	第464号溝跡遺物出土状況(1)	77
第59図	第464号溝跡遺物出土状況(2)	78
第60図	第464号溝跡遺物出土状況(3)	79
第61図	第464号溝跡遺物出土状況(4)	80
第62図	第464号溝跡遺物出土状況(5)	81
第63図	第464号溝跡遺物出土状況(6)	82
第64図	第464号溝跡遺物出土状況(7)	83
第65図	第464号溝跡遺物出土状況(8)	84
第66図	第464号溝跡出土遺物(1)	85
第67図	第464号溝跡出土遺物(2)	86
第68図	第464号溝跡出土遺物(3)	87
第69図	第464号溝跡出土遺物(4)	89

第70图	第464号溝跡出土遺物(5)	89	第106图	第218号住居跡·出土遺物	124
第71图	第464号溝跡出土遺物(6)	90	第107图	第219号住居跡	125
第72图	第464号溝跡出土遺物(7)	91	第108图	第220号住居跡	125
第73图	第464号溝跡出土遺物(8)	92	第109图	第220号住居跡出土遺物	126
第74图	第193号住居跡	97	第110图	第221号住居跡·出土遺物	128
第75图	第194号住居跡	97	第111图	第223号住居跡	129
第76图	第195号住居跡	98	第112图	第223号住居跡出土遺物	130
第77图	第195号住居跡出土遺物	99	第113图	第224号住居跡	130
第78图	第196号住居跡	99	第114图	第225号住居跡	130
第79图	第196号住居跡出土遺物	100	第115图	第226号住居跡	131
第80图	第197号住居跡	100	第116图	第227号住居跡·出土遺物	132
第81图	第198号住居跡·出土遺物	101	第117图	第228号住居跡	133
第82图	第199号住居跡	102	第118图	第229号住居跡·出土遺物	134
第83图	第199号住居跡出土遺物	103	第119图	第231号住居跡出土遺物	135
第84图	第200号住居跡·出土遺物	104	第120图	第230·231号住居跡	136
第85图	第201号住居跡	105	第121图	第232号住居跡	138
第86图	第201号住居跡出土遺物	106	第122图	第232号住居跡出土遺物	139
第87图	第204号住居跡出土遺物	106	第123图	第233号住居跡出土遺物	139
第88图	第202·204号住居跡	107	第124图	第233号住居跡	140
第89图	第203号住居跡	108	第125图	第234号住居跡	141
第90图	第203号住居跡出土遺物	109	第126图	第235号住居跡	142
第91图	第205号住居跡	109	第127图	第235号住居跡出土遺物	143
第92图	第206号住居跡·出土遺物	110	第128图	第236·237号住居跡	144
第93图	第207号住居跡	111	第129图	第238号住居跡·出土遺物	146
第94图	第208号住居跡·出土遺物	112	第130图	第239号住居跡·出土遺物	147
第95图	第209号住居跡	113	第131图	第240号住居跡·出土遺物	148
第96图	第209号住居跡出土遺物	114	第132图	第241号住居跡	150
第97图	第210号住居跡	114	第133图	第241号住居跡出土遺物	151
第98图	第211·222号住居跡 ·第211号住居跡出土遺物	115	第134图	第242号住居跡	151
第99图	第212号住居跡	116	第135图	第243号住居跡	152
第100图	第213号住居跡	117	第136图	第244号住居跡	153
第101图	第214号住居跡·出土遺物	118	第137图	第244号住居跡出土遺物	154
第102图	第215号住居跡	120	第138图	第245号住居跡·出土遺物	155
第103图	第215号住居跡出土遺物	121	第139图	第246号住居跡	156
第104图	第216号住居跡	121	第140图	第246号住居跡出土遺物	157
第105图	第217号住居跡·出土遺物	122	第141图	第247号住居跡出土遺物	158
			第142图	第247号住居跡	159

第143図	第248号住居跡	160	第180図	第279号住居跡 (1)	196
第144図	第249号住居跡・出土遺物	161	第181図	第279号住居跡 (2)	197
第145図	第250号住居跡・出土遺物	162	第182図	第279号住居跡出土遺物	198
第146図	第251号住居跡	163	第183図	第280号住居跡	199
第147図	第251号住居跡出土遺物	164	第184図	第281号住居跡	200
第148図	第252号住居跡・出土遺物	165	第185図	第282号住居跡	201
第149図	第253号住居跡・出土遺物	166	第186図	第284号住居跡・出土遺物	202
第150図	第254号住居跡	167	第187図	第285号住居跡・出土遺物	203
第151図	第255・263号住居跡	167	第188図	第286号住居跡・出土遺物	204
第152図	第256号住居跡	168	第189図	第283号住居跡	205
第153図	第257号住居跡	169	第190図	第287号住居跡・出土遺物	205
第154図	第258号住居跡・出土遺物	170	第191図	第288号住居跡・出土遺物	206
第155図	第259号住居跡	172	第192図	第289号住居跡	207
第156図	第259号住居跡出土遺物	173	第193図	第290号住居跡	208
第157図	第260号住居跡	174	第194図	第291号住居跡・出土遺物	208
第158図	第262号住居跡	174	第195図	第292号住居跡	209
第159図	第261号住居跡・出土遺物	174	第196図	第292号住居跡出土遺物	210
第160図	第264号住居跡	175	第197図	第293号住居跡	211
第161図	第265号住居跡・出土遺物	176	第198図	第293号住居跡出土遺物	212
第162図	第266号住居跡	177	第199図	第294号住居跡	213
第163図	第267号住居跡・出土遺物	178	第200図	第295号住居跡・出土遺物	214
第164図	第268号住居跡・出土遺物	179	第201図	第296号住居跡・出土遺物	216
第165図	第269号住居跡・出土遺物	180	第202図	第297号住居跡・出土遺物	217
第166図	第2群の住居跡分布図	182・183	第203図	第298号住居跡・出土遺物	218
第167図	第270号住居跡	184	第204図	第3群の住居跡分布図	219
第168図	第270号住居跡出土遺物	185	第205図	第299号住居跡・出土遺物	220
第169図	第271号住居跡・出土遺物	186	第206図	第329号住居跡	221
第170図	第272号住居跡	186	第207図	第330号住居跡	222
第171図	第273号住居跡	187	第208図	第330号住居跡出土遺物	223
第172図	第273号住居跡出土遺物	188	第209図	第331号住居跡・出土遺物	225
第173図	第274号住居跡・出土遺物	189	第210図	第332・333号住居跡	226
第174図	第275号住居跡・出土遺物	189	第211図	第332号住居跡出土遺物	227
第175図	第276号住居跡・出土遺物	190	第212図	第334号住居跡	228
第176図	第277号住居跡・出土遺物	191	第213図	第335号住居跡・出土遺物	229
第177図	第278号住居跡	193	第214図	第336号住居跡	230
第178図	第278号住居跡出土遺物 (1)	194	第215図	第336号住居跡出土遺物	231
第179図	第278号住居跡出土遺物 (2)	195	第216図	第337号住居跡・出土遺物	232

第217図	第338号住居跡・出土遺物	233
第218図	第339号住居跡	234
第219図	第339号住居跡出土遺物	235
第220図	第340号住居跡	236
第221図	第340号住居跡出土遺物	237
第222図	第341号住居跡・出土遺物	237
第223図	第342号住居跡	239
第224図	第343号住居跡・出土遺物	239
第225図	第344号住居跡	240
第226図	第344号住居跡出土遺物	241
第227図	第345号住居跡	241
第228図	第4群の住居跡分布図	243
第229図	第300・301号住居跡	243
第230図	第302号住居跡	244
第231図	第303号住居跡	244
第232図	第5群の住居跡分布図	245
第233図	第304・305号住居跡	246
第234図	第306号住居跡	247
第235図	第307号住居跡・出土遺物	248
第236図	第308号住居跡出土遺物	248
第237図	第308号住居跡	249
第238図	第309号住居跡	250
第239図	第310号住居跡出土遺物	250
第240図	第310号住居跡	251
第241図	第311号住居跡	252
第242図	第6群の住居跡分布図	253
第243図	第312号住居跡	254
第244図	第313号住居跡	254
第245図	第314号住居跡・出土遺物	255
第246図	第315号住居跡	256
第247図	第316号住居跡・出土遺物	257
第248図	第317号住居跡	258
第249図	第318号住居跡	258
第250図	第318号住居跡出土遺物	259
第251図	第319号住居跡・出土遺物	261
第252図	第320号住居跡	262
第253図	第320号住居跡出土遺物	263

第254図	第321号住居跡	264
第255図	第322・323号住居跡出土遺物	264
第256図	第322・323号住居跡	265
第257図	第324号住居跡・出土遺物	266
第258図	第325号住居跡	267
第259図	第326号住居跡	267
第260図	第327号住居跡・出土遺物	268
第261図	第328号住居跡	269

〈第2分冊〉

第262図	北群の方形周溝墓分布図	271
第263図	南群の方形周溝墓分布図	272
第264図	第1号方形周溝墓	273
第265図	第1号方形周溝墓出土遺物	274
第266図	第2号方形周溝墓出土遺物	275
第267図	第2号方形周溝墓	276
第268図	第3号方形周溝墓	277
第269図	第4号方形周溝墓・出土遺物	278
第270図	第5号方形周溝墓	279
第271図	第6号方形周溝墓・出土遺物	280・281
第272図	第7号方形周溝墓・出土遺物	283
第273図	第8号方形周溝墓・出土遺物	284
第274図	第10号方形周溝墓	285
第275図	第9号方形周溝墓・出土遺物	286
第276図	第11号方形周溝墓	287
第277図	第11号方形周溝墓出土遺物	288
第278図	第12号方形周溝墓・出土遺物	289
第279図	第13号方形周溝墓・出土遺物	291
第280図	第14号方形周溝墓	292
第281図	第15号方形周溝墓	293
第282図	第16号方形周溝墓	294
第283図	第17号方形周溝墓	295
第284図	第18号方形周溝墓・出土遺物	296
第285図	第19号方形周溝墓	297
第286図	第20号方形周溝墓出土遺物	298
第287図	第20号方形周溝墓	299
第288図	第21号方形周溝墓	300
第289図	第21号方形周溝墓出土遺物	301

第290図	第22号方形周溝墓	302	第327図	溝跡(2)	365
第291図	第23号方形周溝墓	304	第328図	溝跡(3)	366
第292図	第24号方形周溝墓	305	第329図	溝跡(4)	369
第293図	第25号方形周溝墓・出土遺物	306	第330図	溝跡(5)	372
第294図	第26号方形周溝墓出土遺物	307	第331図	溝跡(6)	378
第295図	第27号方形周溝墓	308	第332図	溝跡出土遺物	380
第296図	第27号方形周溝墓	309	第333図	第423・530・531・532号溝跡(1)	382
第297図	第1号木棺墓	311	第334図	第423・530・531・532号溝跡(2)	383
第298図	第1号木棺墓木棺	312	第335図	第423・530・531・532号溝跡(3)	384
第299図	第1号木棺墓木口材・出土木製品	313	第336図	第423・530・531・532号溝跡(4)	385
第300図	土塚(1)	314	第337図	第423・530・531・532号溝跡(5)	386
第301図	土塚(2)	316	第338図	第423号溝跡出土遺物	387
第302図	土塚(3)	318	第339図	第530号溝跡遺物出土状況	389
第303図	土塚(4)	320	第340図	第530号溝跡出土遺物(1)	390
第304図	土塚(5)	322	第341図	第530号溝跡出土遺物(2)	391
第305図	土塚(6)	324	第342図	第530号溝跡出土遺物(3)	392
第306図	土塚(7)	326	第343図	グリッドピット出土遺物	394
第307図	土塚(8)	328	第344図	グリッド遺物(1)	396
第308図	土塚(9)	330	第345図	グリッド遺物(2)	397
第309図	土塚(10)	332	第346図	グリッド遺物(3)	399
第310図	土塚(11)	334	第347図	グリッド遺物(4)	400
第311図	土塚(12)	336	第348図	グリッド遺物(5)	402
第312図	土塚(13)	338	第349図	グリッド遺物(6)	403
第313図	土塚(14)	340	第350図	他の時期の遺構への混入遺物(1)	406
第314図	土塚(15)	342	第351図	他の時期の遺構への混入遺物(2)	407
第315図	土塚(16)	344	第352図	他の時期の遺構への混入遺物(3)	409
第316図	土塚(17)	346	第353図	他の時期の遺構への混入遺物(4)	410
第317図	土塚(18)	348	第354図	他の時期の遺構への混入遺物(5)	411
第318図	土塚(19)	350	第355図	表採遺物	414
第319図	土塚(20)	352	第356図	第1群の住居跡の規模と南北軸方位	418
第320図	土塚(21)	354	第357図	第2群の住居跡の規模と南北軸方位	421
第321図	土塚(22)	356	第358図	第3群の住居跡の規模と南北軸方位	424
第322図	土塚(23)	358	第359図	第4群の住居跡の規模と南北軸方位	426
第323図	土塚(24)	360	第360図	第5群の住居跡の規模と南北軸方位	428
第324図	土塚出土遺物(1)	361	第361図	第6群の住居跡の規模と南北軸方位	430
第325図	土塚出土遺物(2)	362	第362図	北群北半の方形周溝墓の規模と 南北軸方位	434
第326図	溝跡(1)	363			

第363図	北群南半の方形周溝墓の規模と 南北軸方位……………	435	第366図	古墳時代前期の時期区分(2) ……	443
第364図	南群の方形周溝墓の規模と 南北軸方位……………	437	第367図	古墳時代前期の時期区分(3) ……	444
第365図	古墳時代前期の時期区分(1) ……	442	第368図	古墳時代前期の時期区分(4) ……	445
			第369図	方形環濠 関連遺跡(1) ……	447
			第370図	方形環濠 関連遺跡(2) ……	448

表目次

(第1分冊)

第1表	北島遺跡第19地点遺構番号対照表	63~66	第35表	第247号住居跡出土遺物観察表	158
第2表	第464号溝跡出土遺物観察表	93~96	第36表	第249号住居跡出土遺物観察表	161
第3表	第195号住居跡出土遺物観察表	99	第37表	第250号住居跡出土遺物観察表	161
第4表	第196号住居跡出土遺物観察表	99	第38表	第251号住居跡出土遺物観察表	165
第5表	第198号住居跡出土遺物観察表	101	第39表	第252号住居跡出土遺物観察表	166
第6表	第199号住居跡出土遺物観察表	103	第40表	第253号住居跡出土遺物観察表	166
第7表	第200号住居跡出土遺物観察表	104	第41表	第258号住居跡出土遺物観察表	170
第8表	第201号住居跡出土遺物観察表	106	第42表	第259号住居跡出土遺物観察表	171
第9表	第204号住居跡出土遺物観察表	106	第43表	第261号住居跡出土遺物観察表	175
第10表	第203号住居跡出土遺物観察表	109	第44表	第265号住居跡出土遺物観察表	176
第11表	第206号住居跡出土遺物観察表	111	第45表	第267号住居跡出土遺物観察表	178
第12表	第208号住居跡出土遺物観察表	112	第46表	第268号住居跡出土遺物観察表	179
第13表	第209号住居跡出土遺物観察表	114	第47表	第269号住居跡出土遺物観察表	180
第14表	第211号住居跡出土遺物観察表	115	第48表	第270号住居跡出土遺物観察表	185
第15表	第214号住居跡出土遺物観察表	119	第49表	第271号住居跡出土遺物観察表	186
第16表	第215号住居跡出土遺物観察表	119	第50表	第273号住居跡出土遺物観察表	188
第17表	第217号住居跡出土遺物観察表	123	第51表	第274号住居跡出土遺物観察表	190
第18表	第218号住居跡出土遺物観察表	123	第52表	第275号住居跡出土遺物観察表	190
第19表	第220号住居跡出土遺物観察表	127	第53表	第276号住居跡出土遺物観察表	191
第20表	第221号住居跡出土遺物観察表	127	第54表	第277号住居跡出土遺物観察表	191
第21表	第223号住居跡出土遺物観察表	130	第55表	第278号住居跡出土遺物観察表	195
第22表	第227号住居跡出土遺物観察表	133	第56表	第279号住居跡出土遺物観察表	198
第23表	第229号住居跡出土遺物観察表	134	第57表	第284号住居跡出土遺物観察表	202
第24表	第231号住居跡出土遺物観察表	137	第58表	第285号住居跡出土遺物観察表	203
第25表	第232号住居跡出土遺物観察表	137	第59表	第286号住居跡出土遺物観察表	204
第26表	第233号住居跡出土遺物観察表	140	第60表	第287号住居跡出土遺物観察表	205
第27表	第235号住居跡出土遺物観察表	143	第61表	第288号住居跡出土遺物観察表	206
第28表	第238号住居跡出土遺物観察表	145	第62表	第291号住居跡出土遺物観察表	208
第29表	第239号住居跡出土遺物観察表	147	第63表	第292号住居跡出土遺物観察表	210
第30表	第240号住居跡出土遺物観察表	149	第64表	第293号住居跡出土遺物観察表	212
第31表	第241号住居跡出土遺物観察表	151	第65表	第295号住居跡出土遺物観察表	215
第32表	第244号住居跡出土遺物観察表	152	第66表	第296号住居跡出土遺物観察表	216
第33表	第245号住居跡出土遺物観察表	155	第67表	第297号住居跡出土遺物観察表	217
第34表	第246号住居跡出土遺物観察表	157	第68表	第298号住居跡出土遺物観察表	218
			第69表	第299号住居跡出土遺物観察表	221

第70表	第330号住居跡出土遺物観察表	・・・ 224
第71表	第331号住居跡出土遺物観察表	・・・ 225
第72表	第332号住居跡出土遺物観察表	・・・ 225
第73表	第335号住居跡出土遺物観察表	・・・ 229
第74表	第336号住居跡出土遺物観察表	・・・ 231
第75表	第337号住居跡出土遺物観察表	・・・ 232
第76表	第338号住居跡出土遺物観察表	・・・ 233
第77表	第339号住居跡出土遺物観察表	・・・ 235
第78表	第340号住居跡出土遺物観察表	・・・ 237
第79表	第341号住居跡出土遺物観察表	・・・ 238
第80表	第343号住居跡出土遺物観察表	・・・ 240
第81表	第344号住居跡出土遺物観察表	・・・ 241
第82表	第307号住居跡出土遺物観察表	・・・ 247
第83表	第308号住居跡出土遺物観察表	・・・ 249
第84表	第310号住居跡出土遺物観察表	・・・ 250
第85表	第314号住居跡出土遺物観察表	・・・ 255
第86表	第316号住居跡出土遺物観察表	・・・ 257
第87表	第318号住居跡出土遺物観察表	・・・ 260
第88表	第319号住居跡出土遺物観察表	・・・ 260
第89表	第320号住居跡出土遺物観察表	・・・ 263
第90表	第322・323号住居跡出土遺物観察表	・・・ 264
第91表	第324号住居跡出土遺物観察表	・・・ 266
第92表	第327号住居跡出土遺物観察表	・・・ 269
〈第2分冊〉		
第93表	第1号方形周溝墓出土遺物観察表	・・・ 274
第94表	第2号方形周溝墓出土遺物観察表	・・・ 275
第95表	第4号方形周溝墓出土遺物観察表	・・・ 277
第96表	第6号方形周溝墓出土遺物観察表	・・・ 282
第97表	第7号方形周溝墓出土遺物観察表	・・・ 283
第98表	第8号方形周溝墓出土遺物観察表	・・・ 284
第99表	第9号方形周溝墓出土遺物観察表	・・・ 286

第100表	第11号方形周溝墓出土遺物観察表	・・・ 288
第101表	第12号方形周溝墓出土遺物観察表	・・・ 290
第102表	第13号方形周溝墓出土遺物観察表	・・・ 290
第103表	第18号方形周溝墓出土遺物観察表	・・・ 296
第104表	第20号方形周溝墓出土遺物観察表	・・・ 298
第105表	第21号方形周溝墓出土遺物観察表	・・・ 301
第106表	第25号方形周溝墓出土遺物観察表	・・・ 306
第107表	第26号方形周溝墓出土遺物観察表	・・・ 307
第108表	土壌出土遺物観察表	・・・・・・・ 362
第109表	溝跡出土遺物観察表	・・・・・・・ 381
第110表	第423号溝跡出土遺物観察表	・・・・ 392
第111表	第530号溝跡出土遺物観察表	・・・ 392・393
第112表	グリッドピット出土遺物観察表	・・・ 394
第113表	グリッド遺物観察表	・・・・ 404・405
第114表	その他の時期の遺構への 混入遺物観察表	・・・・・・・ 412・413
第115表	表採遺物観察表	・・・・・・・ 414
第116表	北島遺跡第19地点古墳時代前期 第1群の住居跡一覽	・・・・・・・ 416・417
第117表	北島遺跡第19地点古墳時代前期 第2群の住居跡一覽	・・・・・・・ 420
第118表	北島遺跡第19地点古墳時代前期 第3群の住居跡一覽	・・・・・・・ 423
第119表	北島遺跡第19地点古墳時代前期 第4群の住居跡一覽	・・・・・・・ 425
第120表	北島遺跡第19地点古墳時代前期 第5群の住居跡一覽	・・・・・・・ 427
第121表	北島遺跡第19地点古墳時代前期 第6群の住居跡一覽	・・・・・・・ 429
第122表	北島遺跡第19地点古墳時代前期 方形周溝墓一覽	・・・・・・・ 432・433

写真図版目次

- | | | | |
|------|--|------|--|
| 口絵 1 | 方形環濠と第1・2群の住居跡
方形環濠と第1群の住居跡 | | 第201号住居跡
第201号住居跡遺物出土状況 |
| 口絵 2 | 周溝が巡る第279号住居跡
第1号木棺墓 | | 第202・204号住居跡
第205号住居跡 |
| 図版 1 | 方形環濠と第1群の住居跡 (西から)
方形環濠と第1群の住居跡 (南東から) | 図版 6 | 第206号住居跡
第209号住居跡
第209号住居跡遺物出土状況 |
| 図版 2 | 第464号溝跡東辺
第464号溝跡北東隅付近
第464号溝跡南辺
第464号溝跡西辺
第464号溝跡西辺
第464号溝跡覆土堆積状況 (J-J')
第464号溝跡覆土堆積状況 (L-L')
第464号溝跡覆土堆積状況 (N-N') | | 第208号住居跡
第210号住居跡
第211・222号住居跡
第212号住居跡 |
| 図版 3 | 第464号溝跡K18グリッド遺物出土状況
第464号溝跡L17グリッド遺物出土状況
第464号溝跡M15グリッド遺物出土状況
第464号溝跡M14グリッド遺物出土状況
第464号溝跡M14グリッド遺物出土状況
第464号溝跡M13グリッド遺物出土状況
第464号溝跡M13グリッド遺物出土状況
第464号溝跡M13グリッド遺物出土状況 | 図版 7 | 第214号住居跡
第214号住居跡遺物出土状況
第216号住居跡
第218号住居跡
第219号住居跡
第220号住居跡
第220号住居跡遺物出土状況
第220号住居跡貯蔵穴 |
| 図版 4 | 第464号溝跡M13グリッド遺物出土状況
第464号溝跡M13グリッド遺物出土状況
第464号溝跡遺物出土状況
第464号溝跡ヒト下顎骨出土状況
第464号溝跡シカ下顎骨出土状況 | 図版 8 | 第223号住居跡
第226号住居跡
第227号住居跡
第228号住居跡
第229号住居跡
第231号住居跡
第231号住居跡貯蔵穴
第234号住居跡 |
| 図版 5 | 第197号住居跡
第198号住居跡
第195号住居跡 (北半部)
第195号住居跡 (南半部)
第195号住居跡貯蔵穴
第199号住居跡
第200号住居跡 | 図版 9 | 第233号住居跡
第233号住居跡
第233号住居跡遺物出土状況
第238号住居跡
第235号住居跡
第235号住居跡遺物出土状況
第235号住居跡遺物出土状況
第235号住居跡遺物出土状況 |

- | | | | |
|------|-----------------|------|----------------|
| 図版10 | 第240号住居跡 | | 第273号住居跡遺物出土状況 |
| | 第241号住居跡 | | 第275号住居跡 |
| | 第242・243号住居跡 | | 第276号住居跡 |
| | 第245号住居跡 | | 第278号住居跡 |
| | 第244号住居跡 | | 第278号住居跡柱痕 |
| | 第244号住居跡遺物出土状況 | 図版16 | 第278号住居跡遺物出土状況 |
| | 第244号住居跡遺物出土状況 | | 第278号住居跡遺物出土状況 |
| | 第246号住居跡 | | 第278号住居跡遺物出土状況 |
| 図版11 | 第247号住居跡 | | 第278号住居跡遺物出土状況 |
| | 第247号住居跡 | | 第279号住居跡 |
| | 第250号住居跡 | | 第279号住居跡 |
| | 第250号住居跡遺物出土状況 | | 第279号住居跡 |
| | 第249号住居跡 | | 第279号住居跡 |
| | 第251号住居跡 | 図版17 | 第283号住居跡 |
| | 第251号住居跡遺物出土状況 | | 第284号住居跡 |
| | 第251号住居跡遺物出土状況 | | 第285号住居跡 |
| | | | 第287号住居跡 |
| 図版12 | 第253号住居跡 | | 第289号住居跡 |
| | 第255・263号住居跡 | | 第288号住居跡 |
| | 第256号住居跡 | | 第288号住居跡遺物出土状況 |
| | 第257号住居跡 | | 第288号住居跡遺物出土状況 |
| | 第259号住居跡炭化物検出状況 | | 第288号住居跡遺物出土状況 |
| | 第259号住居跡貯蔵穴 | 図版18 | 第292号住居跡 |
| | 第259号住居跡遺物出土状況 | | 第292号住居跡遺物出土状況 |
| | 第264号住居跡 | | 第292号住居跡遺物出土状況 |
| 図版13 | 第265号住居跡 | | 第292号住居跡遺物出土状況 |
| | 第266号住居跡 | | 第291号住居跡 |
| | 第267号住居跡 | | 第293号住居跡 |
| | 第268号住居跡 | | 第293号住居跡貯蔵穴 |
| | 第2群の住居跡（南から） | | 第293号住居跡遺物出土状況 |
| 図版14 | 第2群の住居跡（東から） | 図版19 | 第294号住居跡 |
| | 第270号住居跡 | | 第296号住居跡 |
| | 第270号住居跡遺物出土状況 | | 第297号住居跡 |
| | 第270号住居跡遺物出土状況 | | 第298号住居跡 |
| | 第271号住居跡 | | 第295号住居跡 |
| 図版15 | 第273号住居跡 | | 第295号住居跡 |
| | 第273号住居跡遺物出土状況 | | 第295号住居跡遺物出土状況 |
| | 第273号住居跡遺物出土状況 | | 第295号住居跡遺物出土状況 |

- 図版20 第299号住居跡
 第329号住居跡
 第330号住居跡
 第330号住居跡遺物出土状況
 第330号住居跡遺物出土状況
 第330号住居跡遺物出土状況
 第330号住居跡遺物出土状況
 第335号住居跡
- 図版21 第331号住居跡
 第331号住居跡貯藏穴
 第331号住居跡遺物出土状況
 第331号住居跡小礫群検出状況
 第332・333号住居跡
 第332号住居跡貯藏穴
 第332号住居跡遺物出土状況
 第336号住居跡
- 図版22 第334号住居跡
 第334号住居跡遺物出土状況
 第337号住居跡
 第338号住居跡
 第339号住居跡
 第339号住居跡遺物出土状況
 第339号住居跡遺物出土状況
 第339号住居跡遺物出土状況
 第339号住居跡遺物出土状況
- 図版23 第340号住居跡
 第340号住居跡遺物出土状況
 第340号住居跡環状石器出土状況
 第341号住居跡
 第342号住居跡
 第343号住居跡
 第343号住居跡炭化數物検出状況
 第345号住居跡
- 図版24 第344号住居跡
 第344号住居跡炭化材検出状況（焼失住居）
 第304・305号住居跡
 第304号住居跡
 第306号住居跡
- 第307号住居跡
 第308号住居跡
 第310号住居跡
- 図版25 第311号住居跡
 第312号住居跡
 第314号住居跡
 第315号住居跡
 第316号住居跡
 第317号住居跡
 第319号住居跡
 第319号住居跡貯藏穴
- 図版26 第318号住居跡
 第318号住居跡炭化物層検出状況
 第318号住居跡炭化物層検出状況
 第318号住居跡炭化物層検出状況
 第318号住居跡遺物出土状況
 第318号住居跡遺物出土状況
 第318号住居跡遺物出土状況
 第321号住居跡
- 図版27 第320号住居跡
 第320号住居跡遺物出土状況
 第320号住居跡遺物出土状況
 第324号住居跡
 第322・323号住居跡
 第322号住居跡遺物出土状況
 第322号住居跡遺物出土状況
 第326号住居跡
- 図版28 第327号住居跡
 第327号住居跡遺物出土状況
 第327号住居跡遺物出土状況
 第328号住居跡
 第1～9号方形周溝墓群
- 図版29 第1号方形周溝墓
 第1号方形周溝墓遺物出土状況（東溝）
 第2号方形周溝墓
 第2号方形周溝墓
 第2・3号方形周溝墓

- 第3号方形周溝墓
第4号方形周溝墓
第4号方形周溝墓遺物出土状況(東溝)
図版30 第6号方形周溝墓(北半部)
第6号方形周溝墓(南西部西から)
第6号方形周溝墓遺物出土状況(北西隅)
第6号方形周溝墓遺物出土状況(北溝)
第7号方形周溝墓
第7号方形周溝墓遺物出土状況(北溝)
第7号方形周溝墓遺物出土状況(北溝)
第8号方形周溝墓
図版31 第9号方形周溝墓(北半部)
第9号方形周溝墓(南半部)
第9号方形周溝墓遺物出土状況(北溝)
第10号方形周溝墓
第11・13・15号方形周溝墓群
図版32 第11号方形周溝墓
第12号方形周溝墓
第13号方形周溝墓
第14号方形周溝墓
第20・21・23・24号方形周溝墓群
図版33 第15号方形周溝墓
第16号方形周溝墓
第17号方形周溝墓
第18号方形周溝墓
第20・21・23・24号方形周溝墓群
図版34 第20号方形周溝墓
第20号方形周溝墓遺物出土状況(北溝)
第21号方形周溝墓
第21号方形周溝墓遺物出土状況
第25号方形周溝墓
第25号方形周溝墓遺物出土状況(北西隅)
第26号方形周溝墓
第26号方形周溝墓遺物出土状況(南溝)
図版35 第27号方形周溝墓
第1号木棺墓
第1号木棺墓
- 第1号木棺墓
第1号木棺墓木口
第1号木棺墓木口
第510号土壇
第510号土壇
図版36 第557号土壇
第659号土壇
第445号溝跡
第447号溝跡
第423・530号溝跡
第423号溝跡遺物出土状況
第530号溝跡遺物出土状況
銅鏃(L18グリッド)出土状況
図版37 第464号溝跡出土遺物
図版38 第464号溝跡出土遺物
図版39 第464号溝跡出土遺物
図版40 第464号溝跡出土遺物
図版41 第464号溝跡出土遺物
図版42 第464号溝跡出土遺物
図版43 第464号溝跡出土遺物
図版44 第464号溝跡出土遺物
図版45 第464号溝跡出土遺物
図版46 第464号溝跡出土遺物
図版47 第464号溝跡出土遺物
図版48 第464号溝跡出土遺物
図版49 第464号溝跡出土遺物
第195号住居跡出土遺物
第199号住居跡出土遺物
図版50 第199号住居跡出土遺物
第200号住居跡出土遺物
第201号住居跡出土遺物
図版51 第201号住居跡出土遺物
第203号住居跡出土遺物
第206号住居跡出土遺物
第209号住居跡出土遺物
図版52 第209号住居跡出土遺物
第211号住居跡出土遺物

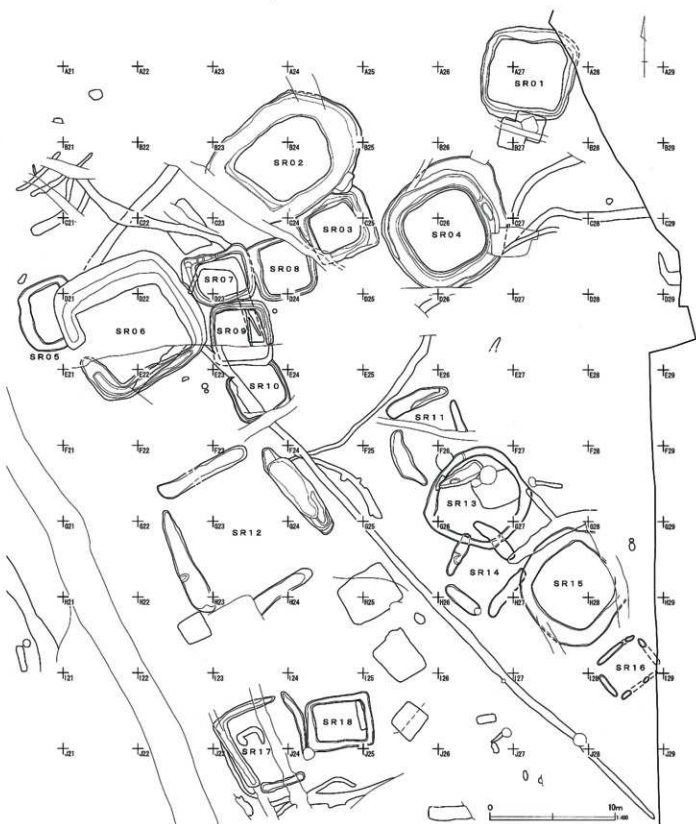
- 第215号住居跡出土遺物
図版53 第215号住居跡出土遺物
第218号住居跡出土遺物
図版54 第218号住居跡出土遺物
第220号住居跡出土遺物
図版55 第220号住居跡出土遺物
第223号住居跡出土遺物
図版56 第229号住居跡出土遺物
第231号住居跡出土遺物
第232号住居跡出土遺物
図版57 第233号住居跡出土遺物
図版58 第233号住居跡出土遺物
第235号住居跡出土遺物
図版59 第235号住居跡出土遺物
第238号住居跡出土遺物
第239号住居跡出土遺物
第240号住居跡出土遺物
図版60 第240号住居跡出土遺物
第241号住居跡出土遺物
第244号住居跡出土遺物
図版61 第244号住居跡出土遺物
図版62 第244号住居跡出土遺物
第246号住居跡出土遺物
第247号住居跡出土遺物
図版63 第247号住居跡出土遺物
第250号住居跡出土遺物
第251号住居跡出土遺物
図版64 第251号住居跡出土遺物
図版65 第251号住居跡出土遺物
第259号住居跡出土遺物
第270号住居跡出土遺物
図版66 第270号住居跡出土遺物
第273号住居跡出土遺物
図版67 第273号住居跡出土遺物
図版68 第275号住居跡出土遺物
第278号住居跡出土遺物
図版69 第278号住居跡出土遺物
- 図版70 第278号住居跡出土遺物
第279号住居跡出土遺物
第288号住居跡出土遺物
図版71 第288号住居跡出土遺物
第292号住居跡出土遺物
第293号住居跡出土遺物
図版72 第293号住居跡出土遺物
第295号住居跡出土遺物
図版73 第295号住居跡出土遺物
第296号住居跡出土遺物
第297号住居跡出土遺物
図版74 第298号住居跡出土遺物
第299号住居跡出土遺物
第330号住居跡出土遺物
図版75 第330号住居跡出土遺物
第332号住居跡出土遺物
第335号住居跡出土遺物
第337号住居跡出土遺物
第338号住居跡出土遺物
図版76 第339号住居跡出土遺物
図版77 第339号住居跡出土遺物
第340号住居跡出土遺物
第344号住居跡出土遺物
図版78 第308号住居跡出土遺物
第310号住居跡出土遺物
第314号住居跡出土遺物
第316号住居跡出土遺物
第318号住居跡出土遺物
図版79 第318号住居跡出土遺物
第319号住居跡出土遺物
図版80 第319号住居跡出土遺物
第320号住居跡出土遺物
第323号住居跡出土遺物
第327号住居跡出土遺物
図版81 第1号方形周溝墓出土遺物
第2号方形周溝墓出土遺物
第4号方形周溝墓出土遺物

	第6号方形周溝墓出土遺物	F16グリッド遺物
図版82	第6号方形周溝墓出土遺物	F17グリッド遺物
	第7号方形周溝墓出土遺物	図版97 G16グリッド遺物
図版83	第8号方形周溝墓出土遺物	G20グリッド遺物
	第9号方形周溝墓出土遺物	H13グリッド遺物
	第11号方形周溝墓出土遺物	H14グリッド遺物
	第13号方形周溝墓出土遺物	H22グリッド遺物
	第20号方形周溝墓出土遺物	図版98 I21グリッド遺物
図版84	第20号方形周溝墓出土遺物	I22グリッド遺物
	第21号方形周溝墓出土遺物	J17グリッド遺物
	第25号方形周溝墓出土遺物	J21グリッド遺物
	第26号方形周溝墓出土遺物	L15グリッド遺物
図版85	第510号土壇出土遺物	L18グリッド遺物
	第552号土壇出土遺物	図版99 M27グリッド遺物
	第557号土壇出土遺物	N19グリッド遺物
	第659号土壇出土遺物	N23グリッド遺物
図版86	第701号土壇出土遺物	N24グリッド遺物
	第460号溝跡出土遺物	O19グリッド遺物
	第513号溝跡出土遺物	O24グリッド遺物
	第527号溝跡出土遺物	図版100 P14グリッド遺物
図版87	第527号溝跡出土遺物	P16グリッド遺物
	第423号溝跡出土遺物	P25グリッド遺物
図版88	第423号溝跡出土遺物	Q10グリッド遺物
図版89	第423号溝跡出土遺物	U29グリッド遺物
	第530号溝跡出土遺物	X15グリッド遺物
図版90	第530号溝跡出土遺物	図版101 第27号住居跡混入遺物
図版91	第530号溝跡出土遺物	第95号住居跡混入遺物
図版92	第530号溝跡出土遺物	第139号住居跡混入遺物
図版93	第530号溝跡出土遺物	第Y259号住居跡混入遺物
図版94	第530号溝跡出土遺物	図版102 第Y259号住居跡混入遺物
	I19グリッドピット25出土遺物	第Y303号住居跡混入遺物
	I16グリッドピット17出土遺物	第Y305号住居跡混入遺物
	J18グリッドピット1出土遺物	第Y269号住居跡混入遺物
図版95	A16グリッド遺物	第Y293号住居跡混入遺物
	D15グリッド遺物	図版103 第Y264号住居跡混入遺物
図版96	D15グリッド遺物	第Y417号住居跡混入遺物
	D17グリッド遺物	第Y359号住居跡混入遺物

第6号掘立柱建物跡混入遺物
図版104 第82号土壙混入遺物
第286号土壙混入遺物
第365号土壙混入遺物
第Y790号土壙混入遺物
第40号井戸跡混入遺物
第50号溝跡混入遺物
図版105 第198号溝跡混入遺物
第266号溝跡混入遺物
第282号溝跡混入遺物
第343号溝跡混入遺物
第386号溝跡混入遺物

図版106 第319号溝跡混入遺物
第Y364号溝跡混入遺物
第4号性格不明遺構混入遺物
表採遺物
図版107 第464号溝跡・住居跡出土破片遺物
住居跡・溝跡出土破片遺物
図版108 グリッド破片遺物
その他の時期の遺構への混入破片遺物
図版109 玉類
石製品類
図版110 第1号木棺墓木棺
第1号木棺墓木棺木口材

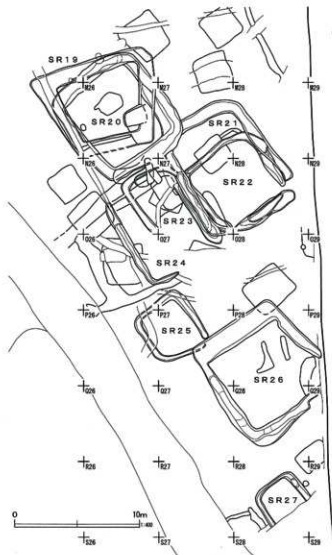
2. 方形周溝墓



第262図 北群の方形周溝墓分布図

北島遺跡第19地点から発見された方形周溝墓は、総数27基を数える（第1～27号方形周溝墓）。いずれも、調査区中央の南北方向に走る水路跡の東岸域に所在する。方形周溝墓の分布する範囲には、該期の住居跡が少ない（住居跡第5・6群）。また、後に造営された古墳跡の分布とも、ほぼ一致する。これらのことから、調査区中央の水路跡東岸域は、この時期から「墓域」として意識されていたことが想定される。その一方で、方形周溝墓の分布範囲と住居跡の分布範囲が重複する事実も残存していることから、「墓域」という占地意識が「絶対的な集落原則」ではなかったことも推測される。

方形周溝墓の配置を詳細にみると、南北二群に分



第263図 南群の方形周溝墓分布図

割され、それぞれ異なる特徴が窺われる。

北群は、第1～18号方形周溝墓の18基である（第262図）。いずれの方形周溝墓も周溝部のみの検出で、墳丘や埋葬主体部は発見されていない。全周タイプの方形周溝墓を中心に、四隅切れタイプの方形周溝墓や北島遺跡唯一の溝辺中央付近にブリッジをもつ第6号方形周溝墓も含まれる。分布範囲は、住居跡第5群の範囲とほぼ一致するが、方形周溝墓と住居跡との重複はきわめて少ない。方形周溝墓同士の重複は、基本的には全周タイプの方形周溝墓と四隅切れタイプの方形周溝墓の重複例であり、同じタイプ同士の方形周溝墓の重複はない。重複状況も、方台部の大半が重複するような例はなく、その一隅や周溝内辺沿いのごく一部が重複しているにすぎない。多くの場合、周溝を接する程度に留まっている。方形周溝墓と方形周溝墓の低い重複率には、配置の計画性の高さをみることができる。また、住居跡との重複もきわめて少ないことから、「墓域」という占地意識の高さも窺われる。

北群は、方形周溝墓の形態の違いや配置から、北側の第1～10号方形周溝墓の10基と、南側の第11～18号方形周溝墓の8基に細分することができる。

第1～10号方形周溝墓は、古墳群との重複関係がない。10基の方形周溝墓のうち、9基は全周タイプの方形周溝墓である。残る1基は、溝辺中央付近にブリッジをもつ第6号方形周溝墓である。四隅切れタイプの方形周溝墓は含まれていない。方形周溝墓同士の重複状況も、周溝外辺が接する程度である。このような状況から、方形周溝墓の配置に綿密な計画性をみることができる。その一端として、ほぼ同等の小規模な方形周溝墓が、方向を揃えて密集する区域もある。

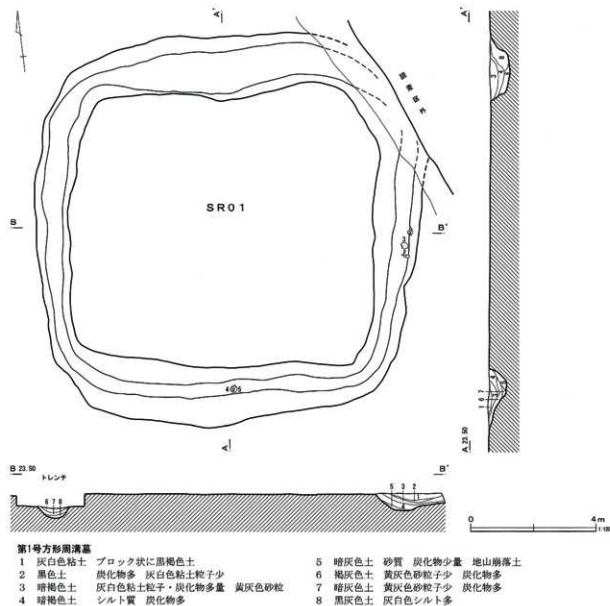
一方、第11～18号方形周溝墓には、古墳群との重複がみられる。また、方形周溝墓のタ

イブも、8基のうち四隅切れタイプの方形周溝墓が4基、全周タイプの方形周溝墓が3基を数える。方形周溝墓同士の重複状況においても、周溝と周溝が交差するような重複が認められる。このように、第1～10号方形周溝墓と様相を異にする。

南群は、第19～27号方形周溝墓の9基である(第263図)。北群と同様に、周溝部が検出され、墳丘や埋葬主体部は発見されていない。分布は、第6群の住居跡とはほぼ一致し、方形周溝墓と住居跡との重複も著しい。また、北群の第11～18号方形周溝墓と同様に、後の古墳群とも重複する。そのなかで、

平面台形を呈する形態の第19号方形周溝墓は、ひととき異質な存在である。他の8基の方形周溝墓は、軸方向を揃えて配置されている。密集度は高いが、周溝と周溝を交差させるような重複はみられない。四隅切れタイプの方形周溝墓もなく、全周もしくは一・二隅切れタイプの方形周溝墓で占められている。このような状況から、方形周溝墓の配置には綿密な計画性をみることができると同時に、方形周溝墓と住居跡の高い重複率から、「墓域」という意識レベルが北群に比べると低いことも推測される。

遺物は、すべてが周溝覆土からの出土である。遺



第264図 第1号方形周溝墓

物量は少ない。貯蔵形態の壺・小型壺を主体とし、供膳形態の高坏・器台・小型鉢類や煮沸形態の甕類もみられる。また、焼成の前後にかかわらず、底部等が穿孔された土器が1点もみられないことは注目される。

第1号方形周溝墓 (第265図)

Z Z 26・Z Z 27・A 26・A 27グリッドに位置し、北東隅部が調査区外にある。遺構確認面の違いから、重複する第305号住居跡よりも古い。

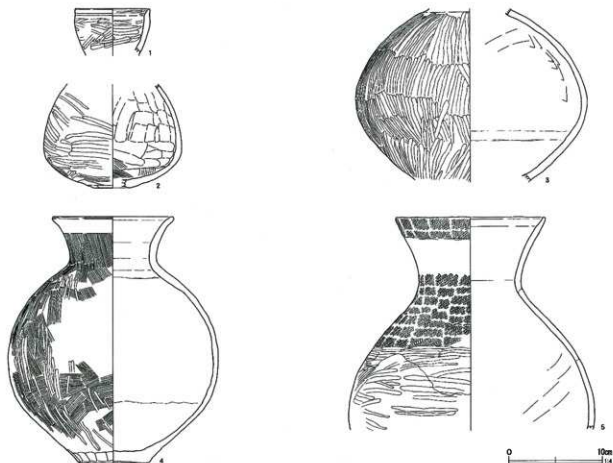
全周タイプの方形周溝墓で、周溝内外辺ともにゆらぎがみられる。周溝外辺が緩やかな弧を描くため、外周形態は隅丸方形である。方台部の平面形態は、

周溝内辺が直線的であるため、東西にやや長い方形を呈している。周溝は、幅の広い北溝・南溝と、幅の狭い東溝・西溝に二分される。

規模は、方台部が南北8.44m×東西9.70m、周溝外法が南北12.26m×東西12.20mを測る。南北軸の方位はN-12.5°-Eを指し、27基のなかで唯一東側に向ける。

北溝は、内辺中央部が内側に張り出すため溝幅が広く、両端の東西隅にかけて狭まっている。幅1.40~2.00m、確認面からの深さ0.52mほどである。壁は内壁・外壁とも外反気味に立ち上がる。

東溝は、外壁の立ち上がり不明瞭であるが、内



第265図 第1号方形周溝墓出土遺物

第93表 第1号方形周溝墓出土遺物観察表 (第265図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	小型壺	(7.7)	(4.9)		ACGI	A	橙	5	
2	小型壺		(10.9)	(3.6)	CEGI	A	にぶい橙	25	
3	壺		(18.3)		BCGI	B	にぶい浅黄橙	40	No1・2・3
4	壺	(12.8)	(26.0)	(6.6)	ABCGI	B	浅黄	30	No4
5	壺	15.7	(22.3)		BCGI	B	にぶい浅黄	50	No4 単節LR 外面にタール伏付着物

外辺ともに直線的である。溝幅は北から南に向かって徐々に狭くなり、1.00~1.50mを測る。確認面からの深さは0.49mほどである。

南溝は、外辺の中央部から西部にかけての張り出しが強い。幅1.16~1.88m、確認面からの深さ0.56mほどである。

西溝は、内外辺ともにごく緩やかな弧を描いている。溝幅は最も狭く、対峙する東溝と同様に北から南に向かって徐々に狭くなる。幅0.80~1.26m、確認面からの深さ0.84mほどである。

周溝の埋没は自然堆積である。断面観察から、まず方台部側から覆土の流入が始まり、その後は周囲から土砂が堆積している様子を見ることが出来る。

遺物は、東溝・南溝の中央付近にまとまった分布がみられる。壺には直口線壺のほかに、東海系の瓢壺とギヶ谷式の系譜を引く肩部・口縁部に縄文が施された壺がある。図示したほかに、壺・甕類333.2gの図化できない微細な破片も出土している。

第265図5は、壺である。外面の口縁部および頸部から肩部にかけて、単節LRの縄文が左から右、下から上の順に施文されている。また胴部下半には、タール状付着物がみられる。



第266図 第2号方形周溝墓出土遺物

第2号方形周溝墓 (第267図)

A23・A24・B23・B24グリッドに位置し、西辺が第37号溝跡に覆乱されている。南溝が第3号方形周溝墓と接するが、新旧関係は明確ではない。また、外辺の南東隅付近に2.6×3.3mほどの土臓状の掘り込みがみられるが、第2号方形周溝墓との関連は不明である。

全周タイプの方形周溝墓である。外形形態は隅丸長方形で、直線的な北溝・南溝の外辺に弧を描く東溝が繋がっている。周溝内辺が直線的な方台部の平面形態は、長い北辺と短い南辺が平行する台形を呈している。周溝内外辺ともにゆらぎがみられ、特に外辺は著しい。

規模は、方台部が南北8.20m×東西8.44~12.30m、周溝外法が南北14.48m×東西19.7m以上を測る。南北軸の方位はN-42°-Wを指す。

北溝は、内外辺ともに緩やかな弧を描き、北東隅付近の弧は著しい。幅2.58~3.00m、確認面からの深さ0.98mほどである。内壁は直立気味に立ち上がる。

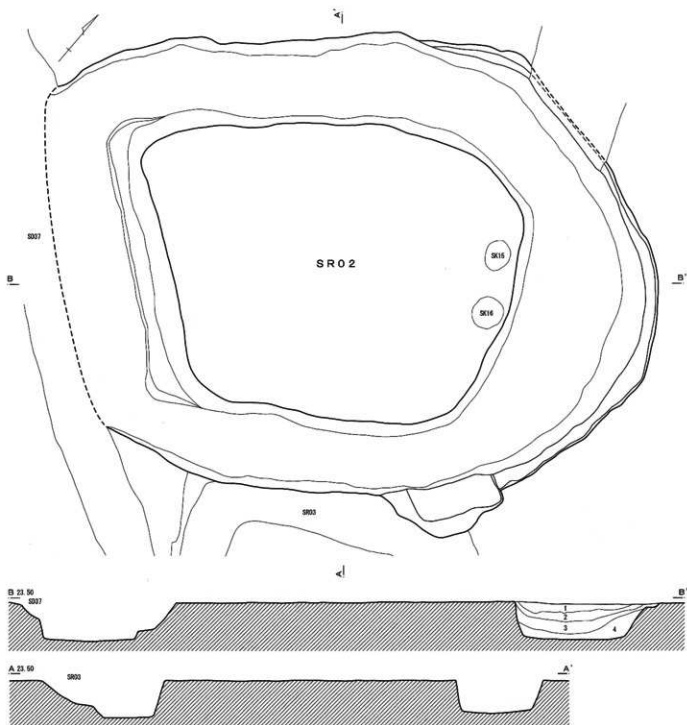
東溝は、内外辺の対照性が著しい。直線的な内辺に対し、外辺は大きく弧を描き、幅0.25~0.60m、確認面からの深さ0.10mほどの浅いテラス部も付設されている。壁は外壁が外反しながら立ち上がるのに対し、内壁は内彎気味に直立する。溝幅は中央付近が最も広く、3.14~4.70mを測る。確認面からの深さは1.15mほどである。

南溝は、内外辺ともに直線的で、幅2.32m、確認面からの深さ1.20mほどである。内壁は直立気味に立ち上がる。

西溝は、内壁際に溝底からの高さ0.25m、幅0.3~0.6mほどのテラスが設置される。幅3.86m以上、確認面からの深さ1.16mほどである。内壁は直立気味に立ち上がる。

第94表 第2号方形周溝墓出土遺物観察表 (第266図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	台付壺	15.5	17.7	7.0	ABCEFGI	B	橙	70	東溝下層



第2号方形周溝墓

- | | |
|--------------|--------------|
| 1 黒色土 炭化物粒子多 | 3 青灰褐色土 氾濫土層 |
| 2 黒褐色土 | 4 黒色土 炭化物多量 |



第267図 第2号方形周溝墓

周溝の埋没は自然堆積である。最下の炭化物層が堆積後、周囲から氾濫土が一気に流入している。

発見された遺物量は少ない。図示した小型の直口

緑台付甕のほかに、壺・甕類4.1gの微細な破片が出土しているにすぎない。

第3号方形周溝墓 (第268図)

B24・B25・C24・C25グリッドに位置し、ほぼ同規模の方形周溝墓が集中する東端に所在する。南西隅付近は、既存電柱の影響や第37号溝跡による擾乱も著しい。北溝が第2号方形周溝墓と接するが、新旧関係は明確ではない。

全周タイプの方形周溝墓である。形態は、外周・方台部ともに東西が長い方形を呈する。規模は、方台部が南北5.46m×東西6.00m、周溝外法が南北8.8m以上×東西9.16m以上を測る。南北軸の方位はN-26°-Wを指す。

東半部の周溝外辺に沿って、幅0.90~1.20m、確認面からの深さ0.18~0.36mほどのテラス部が付設されている。特に東溝は顕著で、溝幅の半分以上がテラス部で占められている。北溝は幅1.8m以上、確認面からの深さ0.82m、東溝は幅1.82~2.50m、確認面からの深さ0.63m、南溝は幅1.50~1.63m、確認面からの深さ0.47m、西溝は最大幅1.56m、確認面からの深さ0.66mほどである。いずれの周溝も、多少のゆらぎがみられるが、基本的には直線的である。壁の立ち上がりは内外壁とも緩やかで、その傾向は外壁に多く認められる。

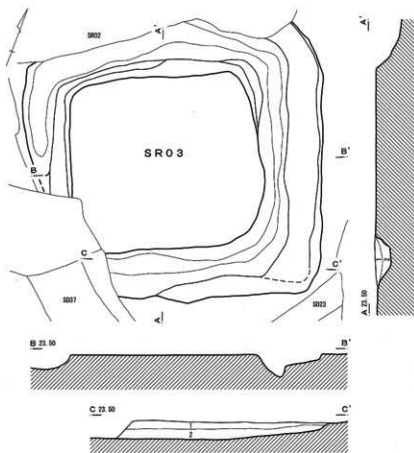
周溝の埋没は自然堆積である。炭化物層の堆積後、粘性の強い白灰色氈蓋土が一気に流入している。

遺物は出土していない。

第4号方形周溝墓 (第269図)

B25・B26・C25・C26グリッドに位置する。南東隅付近は、電柱が既存していたため調査をすることができなかった。また南西隅付近は擾乱され、北東隅付近には第2号住居跡、北西隅付近には第23号溝跡が重複する。

全周タイプの方形周溝墓である。北溝東半部~東溝の外辺に沿って、浅いテラス部が付設されている。テラス部は外方に張り出し、最大幅2.34m、確認面からの深さ0.14~0.20mほどである。テラス部を除く部分の外周形態は、南北15.22m×東西14.92mの端整な隅丸方形で、テラス部を含めると南北



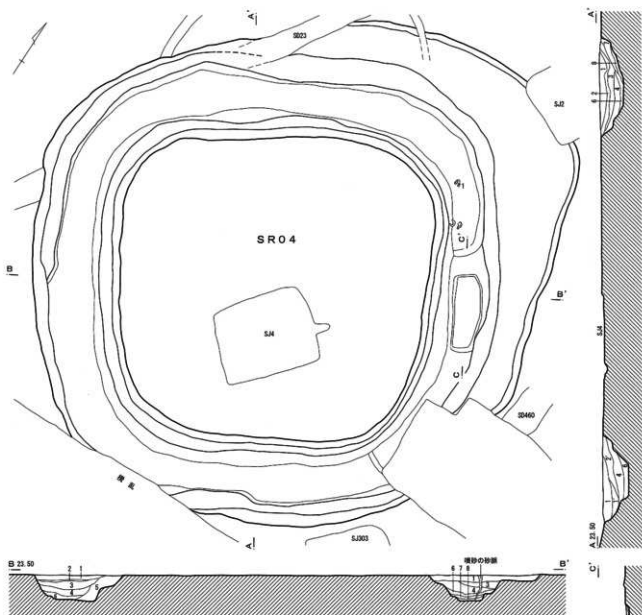
第3号方形周溝墓

- 1 白灰色土 氈蓋土 粘性强
- 2 黒色土 炭化物層

第268図 第3号方形周溝墓

第95表 第4号方形周溝墓出土遺物観察表 (第269図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	壺		(11.8)		ABCG	B	橙	40	No1 波状文+横線文+波状文



第4号方形周溝墓

- | | | |
|----|--------|-------------------------|
| 1 | 褐灰色土 | 灰白色粘土粒子少量 |
| 1' | 暗黄灰色土 | 炭化物粒子多 上部構造物による1層の変色 |
| 2 | 黒灰色土 | 灰白色粘土粒子・ブロック多 炭化物少量 |
| 2' | 褐灰色土 | 灰白色粘土粒子多 |
| 3 | 黄灰色土 | 黄灰色粘土層 炭化物粒子微量 |
| 4 | 暗黄灰色土 | |
| 5 | 黄灰色土 | 黒灰色土ブロック |
| 6 | 暗褐色土 | 炭化物多 黄灰色粘土粒子 浅層Cが部分的に堆積 |
| 7 | 暗灰色シルト | 灰白色粘土粒子少量 炭化物やや多 |
| 8 | 黒灰色シルト | 灰白色粘土粒子 炭化物粒子少 |
| 9 | 褐灰色土 | 炭化物・灰多 黄灰色粘土粒子少 |
| 10 | 褐灰色土 | 炭化物少 灰白色粘土粒子多 |



第269図 第4号方形周溝墓・出土遺物

15.84m×東西17.06mを測る。方台部の平面形態は、東西がわずかに長い端整な隅丸方形を呈している。南北9.36m×東西9.84mの規模をもつ。南北軸の方位はN-31°-Wを指す。

周溝は、内外辺ともにゆらぎが少ない。溝底は、東溝北半部が0.04m、南東隅付近が0.11mほどの比高差の段をもって浅くなる。東溝中央付近には、南北2.44m×東西0.74m×溝底からの深さ0.14mほどの、浅い長方形をした土塊状の掘り込みがみられる。下層には灰白色粘土粒子を多量に含む褐灰色土、上層には炭化物・灰を多量に含む褐灰色土が堆積していた。また東溝・西溝南半部を除き、周溝内外壁に沿って幅0.20~0.40m、溝底からの高さ0.20~0.40mほどのテラス部が巡っている。

北溝は、東半部外辺に沿って幅1.32mほどのテラス部が付設されている。テラス部を除く溝幅2.60m、確認面からの深さ0.65mほどである。

東溝は、外辺に沿って幅1.44~2.72mほどのテラス部が張り出している。テラス部を除く溝幅1.94~2.34m、確認面からの深さ0.64mほどである。

南溝は、内外壁に沿って、テラス部が付設されている。幅2.68m、確認面からの深さ0.84mほどである。

西溝は、外壁南半を除き、テラス部が巡っている。幅2.82m、確認面からの深さ0.84mほどである。

周溝の埋没は自然堆積である。断面観察から、大局的には北東から南西方向に向けて埋没していった状況を確認することができ、標高の高い方から低い方へ向かう方向と一致している。最下層付近には浅間C火山灰が散見され、その上層には灰白色粘土粒子を含む土層が堆積している。

遺物は、東溝北半部にまとまった分布がみられる。図示したほかに、壺・甕類

1010.2gの図化できない微細な破片も出土している。

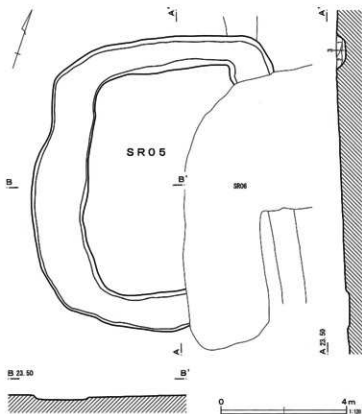
図示した第269図1は、壺である。外面の肩部には波状文+横線文+波状文が施文されている。

第5号方形周溝墓 (第270図)

C20・C21・D20・D21グリッドに位置する。東溝から南溝中央付近は、重複する第6号方形周溝墓によって削平されている。

検出された周溝は全周している。方台部・外周の平面形態は、南北に長軸をもつ長方形を呈している。周溝内外辺がほぼ平行し、方台部・外周のいずれも西溝南半部が外方へ張り出している。

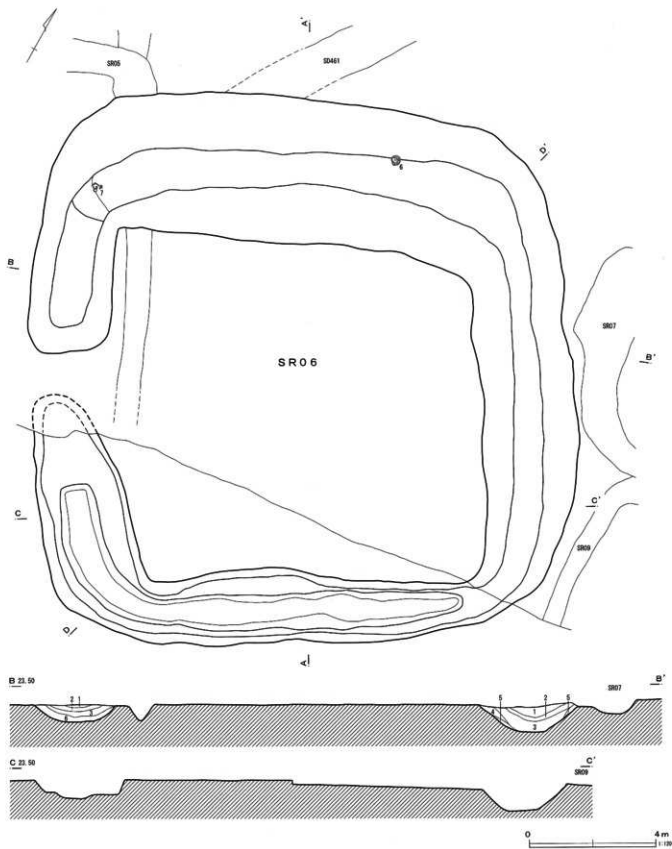
規模は、計測可能な南北長が方台部6.44m、周溝外法8.84mを測る。東西長は、辛うじて計測できる北辺付近で、方台部3.96m、周溝外法7.76mほどである。南北軸の方位はN-20°-Wを指す。



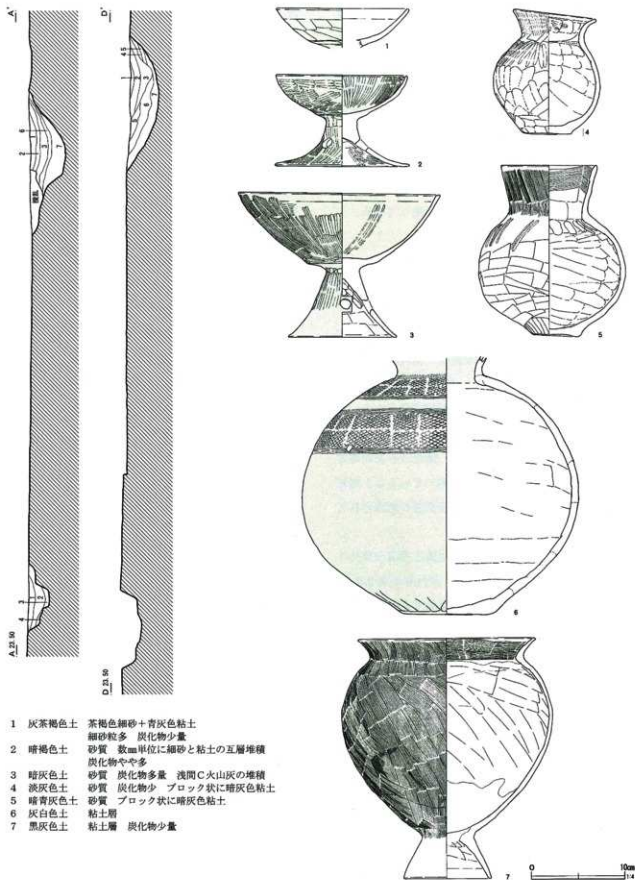
第5号方形周溝墓

- 1 暗青灰色 砂(含鉄分) 粘性強
- 2 暗青灰色 炭化物粒子微量 粘性強
- 3 青灰色 砂質 炭化物粒子多

第270図 第5号方形周溝墓



第271图 第6号方形周墓



- 1 灰茶褐色土 茶褐色細砂+青灰色粘土
細砂粒多 炭化物少量
- 2 暗褐色土 砂質 数m単位に細砂と粘土の互層堆積
炭化物やや多
- 3 暗灰色土 砂質 炭化物多量 浅間C火山灰の堆積
- 4 淡灰色土 砂質 炭化物少 ブロック状に暗灰色粘土
- 5 暗青灰色土 砂質 ブロック状に暗灰色粘土
- 6 灰白色土 粘土層
- 7 黒灰色土 粘土層 炭化物少量

・出土遺物

周溝は、内外辺ともにゆらぎが少ない。溝底は平滑で、方台部側に向かってわずかな傾斜をもつ。北溝は幅1.08m、確認面からの深さ0.32m、東溝は幅1.42m、南溝は幅1.24m、確認面からの深さ0.14m、西溝は幅1.36～1.82m、確認面からの深さ0.13mほどである。

周溝の埋没は自然堆積である。方台部側から、埋没していった状況を確認することができる。最下層には炭化物粒子を多量に含む砂質土が堆積している。

遺物は出土していない。

第6号方形周溝墓 (第271図)

C21・C22・D21・D22・E21・E22グリッドに位置し、第5号方形周溝墓、第461・465・471・472号溝跡と重複する。東側に隣接する第7号方形周溝墓は、本周溝墓を避けて構築された感がある。

溝底中央にブリッジをもつ方形周溝墓である。地山が掘り残されたブリッジが西溝に設置され、ブリッジ幅は約1.3mと推定される。調査区中央の南北方向に走る水路跡側に向かって開いているが、水路跡対岸の居住域を念頭に置いた正面感が意識されているようである。

方台部・外周の平面形態は、東溝と西溝が平行する台形を呈している。規模は、方台部が南北9.70～10.96m×東西11.52m、周溝外法が南北15.60～17.24m×東西17.40mを測る。南北軸の方位はN-35° -Wを指す。

周溝は、内外辺ともにゆらぎがほとんどみられない。溝底は比較的平坦であるが、北西隅付近に比高差0.40mほどの段差が形成され、北溝から西溝に向かって浅くなる。また、南溝から西溝南半部にか

けて、溝底の中央部分が溝状に掘り込まれている。幅1.04～1.34m、溝底からの深さ0.15～0.20mを測る。

北溝は、内外辺ともに直線的で、他辺に比べ幅が広い。幅4.20～4.68m、確認面からの深さ1.22mほどである。

東溝は、外辺南半部が外方へわずかに張り出す。幅2.20～3.12m、確認面からの深さ0.79mほどである。

南溝は、内辺西半部が内方へ張り出す。幅1.32～2.34mで、確認面からの壁際の深さ0.24～0.44m、中央付近の溝状の掘り込み部分の深さ0.64mほどである。

西溝は、わずかに外方へ張り出し、中央のブリッジをその頂点とする。ブリッジ南側の溝幅は2.04～2.90mで、確認面からの壁際の深さ0.42～0.48m、中央の溝状の掘り込み部分の深さ0.58mほどである。一方、ブリッジ北側では、幅2.44～2.62m、確認面からの深さ0.55mほどである。

周溝の埋没は自然堆積で、方台部側から堆積が始まった状況を確認することができる。最下層には粘土が堆積し、中層には浅間C火山灰が散見される。

遺物は、北西隅部の溝底段差付近および北溝東半部にまとまった分布がみられる。図示したほかに、壺・甕類60.0g、高坏・器台類35.8g、椀・鉢類15.9gの図化できない微細な破片も出土している。

第271図6は壺である。肩部には、上端の頸部刺突文と下端の横線文に区画された間に網目状熱赤文2段、胴部上半には上下端とも横線文に区画された間に網目状熱赤文2段が、右から左、下から上の順に施文されている。また、外面の無文部・口縁部内

第96表 第6号方形周溝墓出土土物観察表 (第271図)

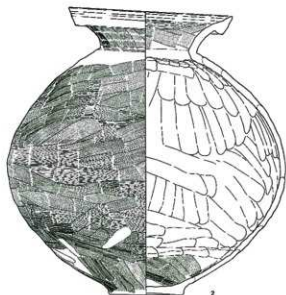
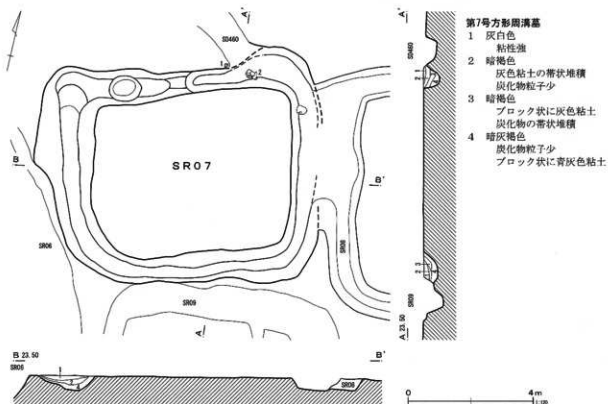
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	高坏	(14.0)	(4.1)		BCEG	B	にぶい橙	25	外面赤彩
2	高坏	13.9	9.6	14.1	BCEG	C	暗褐	95	円孔3 外面・坏部内面赤彩
3	高坏	(21.2)	15.1	(11.4)	ABCEG	B	浅黄橙	70	円孔4 外面・坏部内面赤彩 風化・調整痕不明瞭
4	小型壺	8.6	13.2	5.2	BCGI	B	浅黄橙	95	
5	小型壺	(10.0)	18.0	(4.8)	BCGI	B	浅黄橙	40	
6	壺		(27.0)	8.3	ABCG	B	にぶい橙	80	No1 刺突文 横線文 網目状熱赤文 赤彩
7	台付甕	(18.5)	25.4	9.2	BCGI	B	黒褐	60	No2 外面に煤付着

面には赤彩が施されている。さらに、高坏にも赤彩がみられ、装飾性の高いものが多く含まれている。

第7号方形周溝墓 (第272図)

C22・C23・D22・D23グリッドに位置する。

ほぼ同規模の方形周溝墓が集中する北西端に所在



第272図 第7号方形周溝墓・出土遺物

第97表 第7号方形周溝墓出土遺物観察表 (第272図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	小型壺	(9.8)	15.0	2.6	BCGI	B	浅黄	80	No1 外面・口縁部内面赤彩
2	壺	17.3	29.9	7.8	BCEGI	B	暗褐	90	No3

し、東溝が第8号方形周溝墓、南溝が第9号方形周溝墓と接する。西溝は隣接する第6号方形周溝墓を避けた感がある。また北溝が第460号溝跡と重複する。

全周タイプの方形周溝墓で、外周形態は長方形を呈している。第6号方形周溝墓と隣接する西溝外辺は歪なラインを描き、南西隅付近は丸みを帯びている。方台部の平面形態は長方形で、北東隅が鋭角的、南西隅が隅丸を呈している。周溝は内外辺ともにゆらぎがみられ、特に他の方形周溝墓と隣接する外辺は著しい。

規模は、方台部が南北4.86～5.10m×東西6.22～6.33m、周溝外法が南北6.66～7.44m×東西8.40～9.28mを測る。南北軸の方位はN-20°-Wを指す。

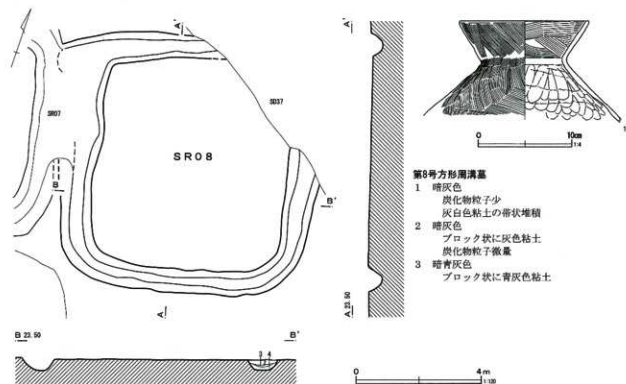
北溝は、内辺が直線的であるのに対し、外辺が内彎し、中央付近の幅が最も狭くなる。幅0.68～

1.42m、確認面からの深さ0.54mほどである。溝底は両端から中央部に向かって高くなり、中央付近では段差をもって最も浅くなる。確認面からの深さ0.14mほどで、確認面の標高如何によっては、地山が掘り残されたブリッジと認識された可能性がある。また西半中央付近には南北0.82m×東西1.06m×溝底からの深さ0.22mほどの楕円形の掘り込みがみられる。

東溝は直線的で、外辺部が第8号方形周溝墓と接する。幅0.9～1.0m前後、確認面からの深さ0.32mほどである。

南溝は、内外辺ともにゆらぎが顕著で、南西隅にかけてカーブを描く。第9号方形周溝墓と隣接する西半部は、意図的に幅が狭くされている。幅0.72～1.16m、確認面からの深さ0.46mほどである。

西溝は、隣接する第6号方形周溝墓との重複を避けるように外辺が歪なラインを描き、北半部と南半



第273図 第8号方形周溝墓・出土遺物

第98表 第8号方形周溝墓出土遺物観察表 (第273図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備	考
1	壺	18.5	(10.4)		ABCGI	B	浅黄橙	30		

部で溝幅が異なる。北半部は1.84~1.92m、南半部は1.12~1.22mで、確認面からの深さ0.44mほどである。また北西隅付近では比高差0.18mほどの段差をもって溝底が浅くなり、北溝へ繋がる。

周溝の埋没状況は自然堆積で、方台部側から堆積が始まった状況を確認することができる。最下層直上には炭化物が堆積している。

遺物は、北溝・東溝の北東隅付近の方台部側にまとまった分布がみられる。図示したほかに、壺・甕類216.2gの図化できない微細な破片も出土している。

第8号方形周溝墓 (第273図)

C23・C24・D23・D24グリッドに位置する。ほぼ同規模の方形周溝墓が集中する一角に所在し、西溝が第7号方形周溝墓と接する。北東隅付近を第37号溝跡に掘削されている。

北東隅部を攪乱されているため断定はできないが、集中する同規模の方形周溝墓との比較から、全周タイプの方方形周溝墓と推定される。外形形態は方形を呈し、東溝はわずかに外方へ開く。方台部の平面形態は方形で、第7号方形周溝墓と接する西溝側が内側へ張り出す。

規模は、方台部が南北6.74m×東西5.96~6.18m、周溝外法が南北8.16m×東西8.36mを測る。南北軸の方位はN-16°-Wを指す。

周溝内外辺ともにゆがみが少ない。

北溝は、中央付近の幅が最も狭くなる。幅0.70~1.02m、確認面からの深さ0.37mほどである。

東溝は、南東隅を軸にして東側が開き、幅も広くなる。幅0.76~1.09m、確認面からの深さ0.31mほどである。

南溝は、内外辺ともにわずかなゆがみがみられる。幅0.68m、確認面からの深さ0.40mほどである。

西溝は、北半部が第7号方形周溝墓と接する。幅1.00m、確認面からの深さ0.42mほどである。

周溝の埋没は自然堆積である。粘土質の土壌を主体とし、炭化物の含有量が他の周溝墓の周溝覆土と比べて少ない。

遺物は、図示したほかに壺・甕類189.6gの図化できない微細な破片も出土している。

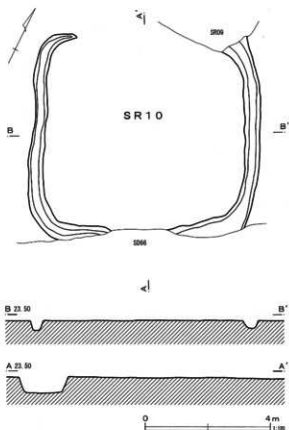
第10号方形周溝墓 (第274図)

D23・E23・E24グリッドに位置する。ほぼ同規模の方形周溝墓が集中する南端に所在し、北東隅付近が第9号方形周溝墓と、南溝が第66号溝跡と重複する。

「コ」の字に溝が巡るタイプの方方形周溝墓である。北溝部はなく、東溝・西溝とも北東隅・南東隅を形成して立ち上がる。外形形態は、方形を呈している。東溝が緩やかな弧を描き、西溝にはゆがみがみられる。方台部の平面形態は、隅丸方形である。北東隅・南東隅の丸味は顕著である。

規模は、方台部が南北5.92m×東西6.36m、周溝外法が南北6.56m前後×東西7.20~7.30mを測る。南北軸の方位はN-25°-Wを指す。

東溝は、幅0.46~0.53m、確認面からの深さ0.23mほどである。両端の南北隅付近の幅が広くなり、



第274図 第10号方形周溝墓

方台部隅の丸味を強調している。

南溝は、重複する第66号溝跡によって大半が削平されている。そのため溝幅は計測できないが、東溝・西溝よりも幅広い。確認面からの深さは0.17mほどである。

西溝は、中央付近にわずかな括れがみられる。幅0.37～0.55m、確認面からの深さ0.28mほどである。

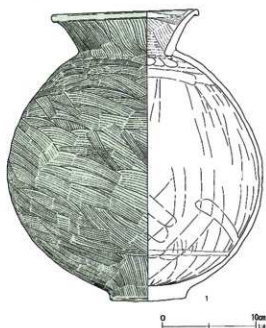
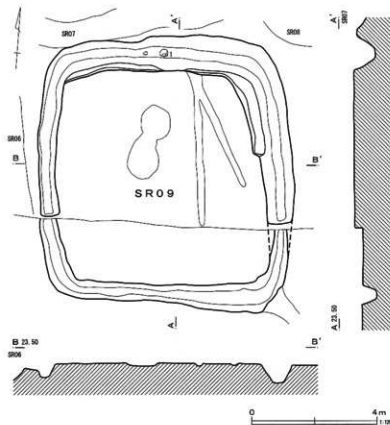
遺物は出土していない。

第9号方形周溝墓（第275図）

D23グリッドに位置する。ほぼ同規模の方形周溝墓が集中する一角に所在し、北溝が第7号方形周溝墓と、南東隅部が第10号方形周溝墓と接する。また、西溝が第6号方形周溝墓と近接し、第474・475号溝跡と重複する。

既存施設の撤去等の諸条件から、発掘調査は南北に分割されて行われたため、東溝・西溝が途切れているが、本来は全周タイプの方形周溝墓である。方台部・外周の平面形態は、方形を呈している。北溝・南溝が直線的であるのに対し、東溝・西溝はごく緩やかな弧を描き、内辺はその対照性が顕著である。また、北溝～東溝北半部の内辺に沿って、テラスが付設されている。

規模は、方台部が南北6.80m×東西5.50～6.70m、周溝外法が南北8.46m×東西8.16mを測る。南北軸の方位はN-5°-Wを指す。



第275図 第9号方形周溝墓・出土遺物

第99表 第9号方形周溝墓出土遺物観察表（第275図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	壺	15.2	30.5	7.9	ABCEGI	B	におい浅黄	85	No1 赤彩

北溝は、第8号方形周溝墓と接する西半部の幅が狭くなる。付設されているテラス部は狭く、中央付近にはみられない。幅0.2m前後×確認面からの深さ0.11mほどである。テラス部を含めた幅は、西半部が0.86～1.08m、東半部が1.08～1.27mほどである。テラス部を除いた幅は、西半部が0.68～0.88m、東半部が1.06～1.12mで、確認面からの深さ0.65mである。

東溝は、北半部のみテラス部が付設されている。幅0.40～0.54mと北溝テラスとの差が大きく、確認面からの深さ0.16mほどである。溝幅は、発掘調査が分割された南北で検出幅が異なっている。北半部のテラス部を含めた幅1.21～1.48m、テラス

部を除いた幅0.83～1.04m、南半部の幅0.38～0.56m、確認面からの深さ0.59mほどである。

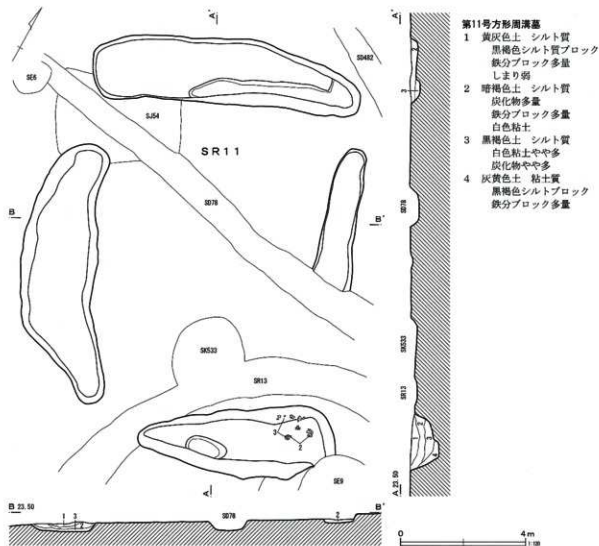
南溝は、内外辺ともにわずかなゆらぎがみられ、幅も東から西に向かって狭くなる。幅0.55～0.92m、確認面からの深さ0.49mほどである。

西溝は最も弧を描く。幅0.52～0.72m、確認面からの深さ0.41mほどである。

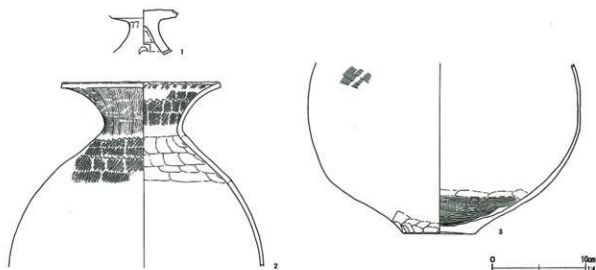
遺物は、北溝中央付近にまとまった分布がみられる。図示したほかに、壺・甕類17.5gの図化できない微細な破片も出土している。

第11号方形周溝墓 (第276図)

E25・E26・F25・F26グリッドに位置し、第13号方形周溝墓・第54号住居跡・第9号井戸跡・



第276図 第11号方形周溝墓



第277図 第11号方形周溝墓出土遺物

第100表 第11号方形周溝墓出土遺物観察表 (第277図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	高坏	(4.5)			BCEGI	B	橙	20	円孔4 風化・調整痕不明瞭
2	壺	(17.1)	(19.6)		ABCEG	B	にぶい橙	30	No1・8 S字状結節文+単節LR
3	壺	(18.0)	7.6		ABCEG	B	にぶい橙	30	No3・4・5・6・8 風化・調整痕不明瞭

第78号溝跡と重複する。

四隅切れタイプの方形周溝墓である。方台部の平面形態は、南北に長軸をもつ長方形を呈している。規模は、方台部が南北9.60m×東西7.24m、周溝外法が南北13.88m×東西10.24mを測る。南北軸の方位はN-27°-Wを指す。

北溝は、西端部に面をもち、北西・南東隅にはしっかりとした角が形成されている。西半部では外辺と内辺が平行するが、東半部では外辺が寄り、先端部に至る形態をもつ。最大幅2.08m×長さ8.64m、確認面からの深さ0.22mを測る。また、東端から南壁東半部に沿って、幅0.36~0.84m、溝底からの深さ0.16mほどの溝状の掘り込みがみられる。

東溝は、第78号溝跡との重複から南端部が不明である。幅1.24m、確認面からの深さ0.22mほどである。外辺の延長線が、北溝・南溝の東端部とほぼ一致している。内辺は方台部側にわずかに張り出し、やや歪感のある方台部を形成している。

南溝は、面をもつ東端部から外辺が寄りながら

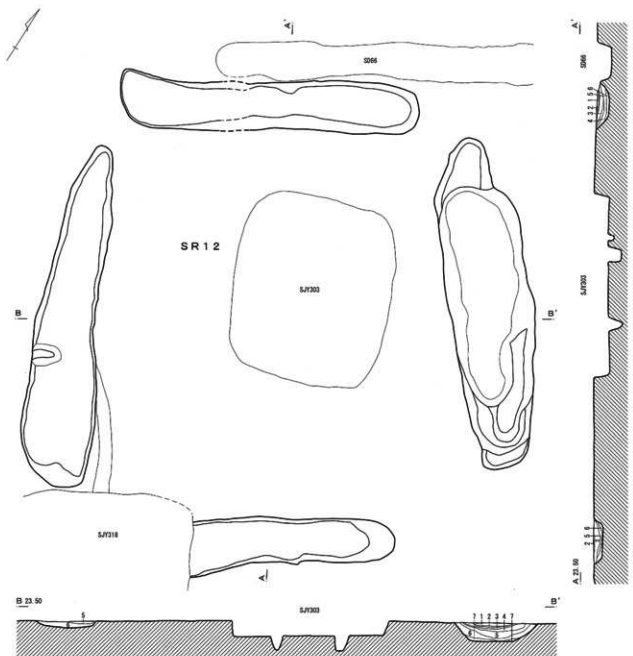
西端部に至る形態をもつ。東端付近の最大幅は2.28m、確認面からの深さは0.70mほどである。北溝・東溝・西溝の深さが0.2m強であるのに対し、南溝はその3倍を超える。また、西半部外辺壁際には、南北0.52m×東西1.22m×溝底からの深さ0.20mほどの楕円形の掘り込みがある。

西溝は内外辺ともに弧を描き、両端部に面が形成されていない。内辺の延長線が北溝・南溝西端の先端付近もしくは西側を通り、西溝だけが外側に張り出すような位置関係にある。最大幅2.48m、確認面からの深さ0.26mほどである。

周溝の埋没は自然堆積で、多量の炭化物と白色粘土を含む土壌を主体としている。

遺物は、図示したほかに壺・甕類170.0g、高坏・器台類9.6gの図化できない微細な破片も出土している。

第277図2は、壺である。外面肩部と内面口縁部には、「S」字状結節文+単節LR+単節LRを一単位とする施文が2単位ずつ施されている。



第12号方形周溝墓

- | | |
|---------------------|----------------------|
| 1 黒褐色土 炭化物粒子・焼土粒子若干 | 5 暗灰褐色土 細砂粒多 |
| 2 灰黒褐色土 灰多量 | 6 暗褐色土 炭化物多 黄褐色土ブロック |
| 3 黒褐色土 灰・炭化物多 | 7 暗灰青色土 炭化物多 |
| 4 暗褐色土 炭化物多 | 6層の還元による青灰色化か？ |



第278図 第12号方形周溝墓・出土遺物

第12号方形周溝墓 (第278図)

F22・F23・F24・G22・G23・G24・H22・H23グリッドに位置する。

四隅切れタイプの方形周溝墓である。方台部の平面形態は、台形を呈している。北溝と南溝は平行し、東溝と西溝は「八」の字に配置されている。対面する溝同士の幅・形状は近似する一方で、隣り合う溝同士の幅・形状は異なっている。

規模は、方台部が南北16.36m×東西13.68～16.76m、周溝外法が南北20.36m×東西16.52～21.68mを測る。南北軸の方位はN-29°-Wを指す。

北溝は、両端部にしっかりと面をもち、平行する内外辺は中央付近に向かってわずかに括れるラインを描く。最大幅1.96m×長さ12.76m、確認面からの深さ0.49mを測る。

東溝は、中央部の長さ9.3mほどの範囲が深く掘り込まれ、ここから階段状に浅くなりながら南北両端部に至る。北端部は窄まり、南端部はしっかりと面をもち、他の3辺に比べ溝幅が広く、最大幅3.68m×長さ13.96m、確認面からの最深0.83mほどである。内辺の延長線は、北側では北溝東端部付近を通るが、南側では南溝東端部から大きく外側にはずれた地点を通過する。

南溝は、西端部が検出できなかつた。外辺が西端に向かうに従って外方に張り出し、溝幅が広がる傾向が窺われる。最大幅2.32m、確認面からの深さ0.41mほどで、長さは8.6m以上ある。

西溝は最大幅を南端付近にもち、北端部にかけて窄まる。最大幅3.08m×長さ14.44m、確認面からの深さ0.19mほどである。内辺の延長線は東溝と同様に、北側が北溝西端部付近を通り、南側は南

溝の推測される西先端の外側を通過する。また、外辺中央の壁際には、南北0.92m×東西1.24m×溝底からの比高差0.08mほどの隆起がみられる。

周溝の埋没は自然堆積で、方台部側から堆積が始まった状況を見ることができる。多量の炭化物和灰を含んだ土壌が、堆積を繰り返している。

遺物は、図示したほかに壺・甕類428.1gの図化できない微細な破片も出土している。

第278図3は、壺の頸部片である。外面には、2点を一単位とする円形浮文が貼付されている。胎土には赤色粒・石英・長石・雲母が含まれ、焼成は普通である。色調は橙色を呈し、赤彩はみられない。

第13号方形周溝墓 (第279図)

F25・F26・F27・G25・G26・G27グリッドに位置する。四隅切れタイプの第11・14号方形周溝墓や、第308号住居跡、第533号土壌、第482号溝跡と重複する。

全周タイプの方形周溝墓で、外周・方台部の形態は、丸味が強い隅丸台形を呈している。特に、北西溝と北東溝を繋ぐ隅は丸く、カーブを描く。

規模は、方台部が北西-南西10.46m×北東-南西9.46～11.34m、周溝外法が北西-南西12.50m×北東-南西9.80～13.50mを測る。北西-南東軸の方位は、N-60°-Wを指す。

北西溝は、大きく弧を描く。幅1.18～1.64m、確認面からの深さ0.13mほどである。西端付近の幅が広くなり、溝底は北隅付近に比高差0.09mほどの段差をもつ。また、内辺中央付近の壁際には、南北2.14m×東西0.53m×溝底からの深さ0.14mほどの土壌状の掘り込みもみられる。

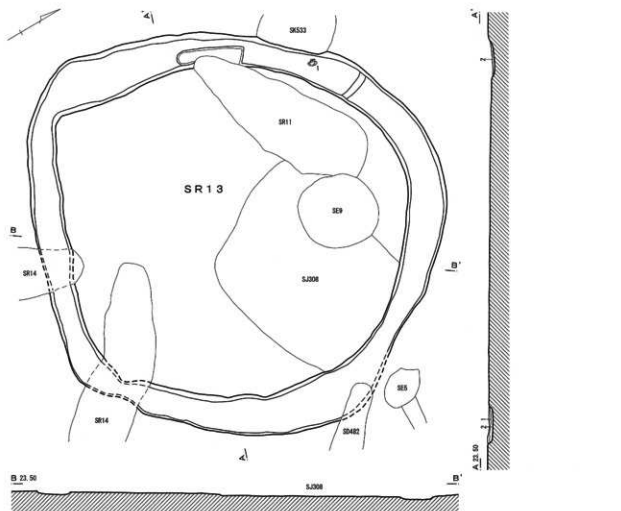
北東溝は、比較的直線的である。東半部の溝幅が

第101表 第12号方形周溝墓出土遺物観察表 (第278図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	甕	(19.0)	(3.7)		BCEGI	B	橙	5	No2
2	方付壺		5.5	(7.8)	BCG	B	にぶい橙	5	No2

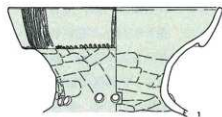
第102表 第13号方形周溝墓出土遺物観察表 (第279図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	壺	22.0	(10.9)		ABCGI	B	にぶい赤褐	25	縦位土線+キザミ 円形浮文 内外面赤彩



第13号方形周溝墓

- 1 黄灰色土 シルト質 鉄分ブロック しまり弱
 2 灰白色土 シルト質 鉄分ブロック しまり弱



第279図 第13号方形周溝墓・出土遺物

狭まり、幅0.66～1.28m、確認面からの深さ0.09mほどである。

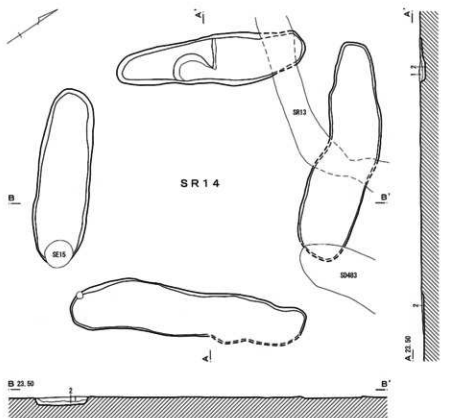
南東溝も、直線的である。東から南に向かって幅が狭まり、幅1.00～1.56m、確認面からの深さ0.12mほどである。

南西溝は最も直線的で、北西溝に繋がる方台部西

隅にはしっかりとした角が形成されている。幅1.03m、確認面からの深さ0.11mほどである。

遺物は北西溝にまとまった分布がある。図示したほかに、壺・甕類298.3g、高坏・器台類3.3gの図化できない微細な破片も出土している。

図示した第279図1は、複合口縁の壺である。口



第14号方形周溝墓

- 1 灰色土 シルト質 炭化物少量 灰色ブロック少
 2 灰白色土 シルト質 鉄分沈着多 砂状ブロック少

第280図 第14号方形周溝墓

縁部の外面には、10条前後を一単位とする縦位の沈線が施文され、下辺にはキザミが施されている。また、頭部には、2点を一単位とする円形浮文が4単位貼付されている。さらに、内外面ともに、赤彩がみられる。

第14号方形周溝墓（第280図）

G26・G27・H26グリッドに位置し、第483号溝跡、第15号井戸跡に攪乱されている。

四隅切れタイプの方形周溝墓で、全周タイプの第13・15号方形周溝墓と重複する。方台部の平面形態は、やや歪な平行四辺形を呈している。規模は、方台部が北西-南東6.12~6.60m×北東-南西6.94~7.48m、周溝外法が北西-南東8.66~9.80m×北東-南西10.14~10.48mを測る。北西-南東軸の方位は、N-53°-Wを指す。

北西溝は、中央付近に比高差0.08mほどの段差

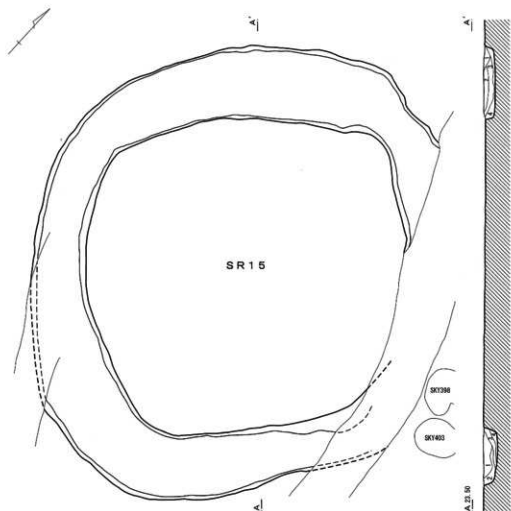
をもつ。最大幅1.68m×長さ6.08m、確認面からの深さ0.15mを測る。北東溝は、中央付近でわずかに屈曲する。最大幅1.84m、確認面からの深さ0.05mほどで、長さ6.94mと推定される。南東溝は、最大幅1.60m×長さ3.70m、確認面からの深さ0.11mほどである。南西溝は最大幅1.66m、確認面からの深さ0.28mほどで、長さ5.54mと推定される。

周溝の埋没は、自然堆積である。

遺物は、壺・甕類198.4g、高坏・器台類3.4gが出土しているが、いずれも微細な破片のため図示できない。

第15号方形周溝墓（第281図）

G27・G28・H27・H28グリッドに位置する。四隅切れタイプの第14号方形周溝墓や第483号溝跡と重複する。



第15号方形周溝墓

- | | | | | | | |
|---|------|-------------|-------------|-------|-------|------|
| 1 | 黒褐色 | 炭化物粒子・粘土粒子少 | しまり強 | 粘性やや強 | やや砂質 | |
| 2 | 暗褐色 | 炭化物少 | 白色粘土ブロックやや多 | しまり強 | 粘性やや強 | やや砂質 |
| 3 | 黒褐色 | 炭化物粒子・粘土粒子少 | しまり強 | 粘性やや強 | 粘質 | |
| 4 | 暗灰褐色 | 炭化物やや多 | 白色粘土ブロック少 | しまり強 | 粘性やや強 | 粘質 |



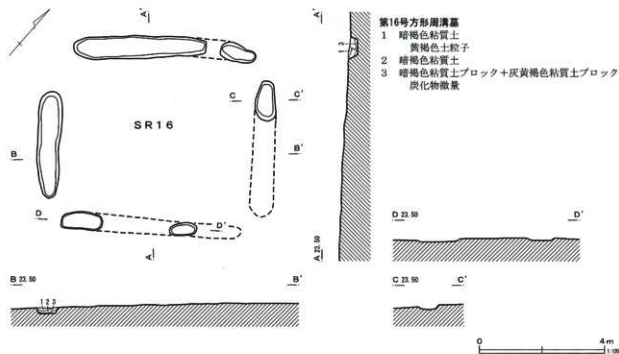
第281図 第15号方形周溝墓

全周タイプの方形周溝墓である。東溝南東部は検出されていないが、周溝外辺が緩やかな弧を描いている。そのため、外形形態は隅丸方形で、四隅の丸味が強い。方台部の平面形態も、周溝内辺が弧を描く隅丸方形を呈しているが、四隅の角は比較的しっかりとしている。

規模は、方台部が南北9.68m×東西10.30mを測る。周溝外法は南北13.52mで、東西長は13.8m前後と推定される。南北軸の方位はN-45°-Wを指す。

北溝は最も丸味が強く、特に外辺の北西隅にはほとんど角がみられない。これに対し、内辺の方台部では、北西隅・北東隅とも意識的に角が形成されている。幅2.00～2.32m、確認面からの深さ0.36mほどである。壁は内壁・外壁とも直立気味に立ち上がる。

東溝は、北側の三分の一ほどが検出されている。北東隅では括れるように窄まり、外辺のゆらぎも著しい。幅1.36～1.94m、確認面からの深さ0.17mほどである。



第282図 第16号方形周溝墓

南溝は、最も直線的である。幅1.52～2.05m、確認面からの深さ0.46mほどである。壁は内壁・外壁とも直立気味に立ち上がる。

西溝は、内外辺ともに丸く外方へ張り出している。そのピークは、外辺が南側の三分の一付近、内辺が中央付近にある。溝幅は、南から北に向かって狭まり、幅1.68～2.98m、確認面からの深さ0.22mほどである。

周溝の埋没は自然堆積で、方台部側から堆積が始まった状況がみられる。最下層には、炭化物を多く含む土壌が堆積している。

遺物は出土していない。

第16号方形周溝墓（第282図）

H28・I28グリッドに位置し、南東隅付近が調査区外にある。

四隅切れタイプの方形周溝墓であるが、残存状態が悪く、周溝が点々と途切れている。方台部の平面形態は、東西に長軸をもつ長方形を呈している。規模は、方台部が南北5.20m×東西6.20m、周溝外法が南北6.40m×東西7.56mを測る。南北軸の方位はN-41°-Wを指す。

北溝は、東端部付近で途切れ、延長は5.8～5.9m前後と推定される。西側の規模は、最大幅0.76m×長さ4.24m、確認面からの深さ0.26mを測る。東側は幅0.58m×長さ1.16m、確認面からの深さ0.08mほどである。

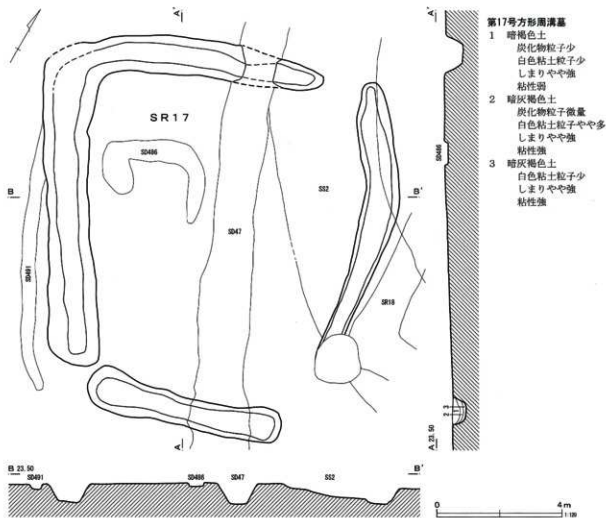
東溝は、北端部付近のみが検出されている。検出規模は、幅1.04m×長さ1.28m、確認面からの深さ0.07mほどである。推定される延長は4.3m前後と思われる。

南溝は、東半部中央付近および西端部のみが検出されている。確認面からの深さ0.06mと浅い。東側の規模は幅0.40m×長さ0.86m、西端部は幅0.56m×長さ1.34mほどである。推定される延長は5.7m前後と思われる。

西溝には、溝の途切れはみられないが、方形周溝墓の規模と比較すると延長が短い感がある。最大幅0.76m×長さ3.42m、確認面からの深さ0.22mほどである。

周溝の埋没は自然堆積で、暗褐色の粘質土が堆積している。

遺物は出土していない。



第283図 第17号方形周溝墓

第17号方形周溝墓（第283図）

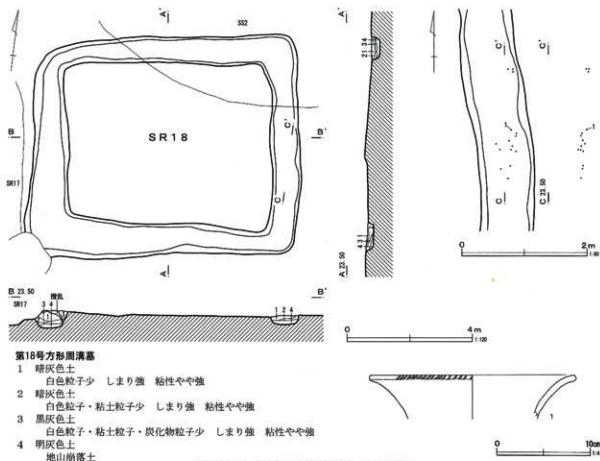
I 23・I 24・J 23・J 24グリッドに位置し、第2号古墳跡、第47・486・491号溝跡と重複する。東溝の南半部が第18号方形周溝墓と近接している。

北東・南東・南西の三隅が切れる方形周溝墓である。北溝と西溝が「L」字形に連結し、東溝・南溝はそれぞれ単独の溝となっている。東溝北端は北溝外辺延長線と、南溝東端は東溝内辺延長線と、そして南溝西端は西溝内辺延長線とほぼ一致する位置関係にある。そのため、溝が途切れる北東隅・南東隅・南西隅の各ブリッジ幅に差が生じている。南西隅が0.24mに対し、北東隅が1.28mを測り、南東隅は1.7m前後と推定され、南西隅の南溝と西溝の近接ぶりがクローズ・アップされる。

外周・方台部の平面形態は、北溝・南溝が平行し、北溝が南溝よりも長い台形を呈している。規模は、方台部が南北10.32m×東西7.46～8.90m、周溝外法が南北12.84m×東西9.50～11.40mを測る。南北軸の方位はN-29°-Wを指す。

北溝は、外辺が緩やかな弧を描き、北西隅付近でゆらぎがみられる。これに対し、方台部側の内辺は直線的で、中央付近にごくわずかな屈曲がみられる。幅0.84～1.22m、確認面からの深さ0.50mほどである。

東溝は、南端部が攪乱されている。中央付近が外方に張り出すように屈曲し、屈曲した南半部は第18号方形周溝墓と平行している。このような状況から、本周溝墓は第18号方形周溝墓を意識して構



第284図 第18号方形周溝墓・出土遺物

第103表 第18号方形周溝墓出土遺物観察表 (第284図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	壺	(21.6)	(4.6)		ADE	B	にぶい黄橙	5	No4 ハケ工具剥突による斜線列文 風化・調整痕不明瞭

築されているようである。幅0.59～1.34m、確認面からの深さ0.49mほどで、長さ9.6m前後と推定される。

南溝は、内外辺ともにゆらぎがみられる。中央付近に比べ、両端部付近が幅広となっている。幅0.84～1.34m×長さ6.32m、確認面からの深さ0.40mほどである。

西溝は、わずかなゆらぎがみられるが、内外辺ともに直線的である。溝幅は最も広く、1.24～1.78mを測り、確認面からの深さ0.55mほどである。

周溝の埋没は自然堆積である。

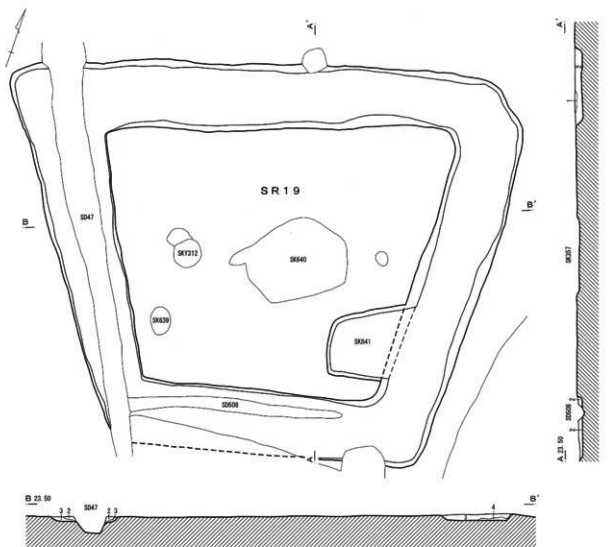
遺物は壺・甕類39.2gが出土しているが、微細な破片のため図示し得ない。

第18号方形周溝墓 (第284図)

I 24・I 25・J 24グリッドに位置する。第2号古墳跡と重複し、南西隅を攪乱されている。西溝は、本周溝墓を避けるように屈曲した第17号方形周溝墓東溝と平行している。

全周タイプの方形周溝墓で、外形形態は長方形である。北西隅は丸いものの、他の隅はしっかりとした角をもつ。方台部の平面形態も長方形を呈している。北西隅がしっかりとした角をもつ一方で、東溝内辺のゆらぎが大きく、その影響が北東隅部に現れている。

規模は、方台部が南北4.74～5.34m×東西6.42～6.66m、周溝外法が南北6.90～7.00m×東西8.34～8.68mを測る。南北軸の方位はN-9°-W



第19号方形周溝墓

- 1 淡灰色土 灰白色細砂粒主体
- 2 暗灰色土 灰白色細砂粒底状 炭化物散在 シルト質 鉄・マンガン沈着
- 3 暗灰黒色土 灰白色砂粒やや多 炭化物 シルト質 鉄・マンガン沈着
- 4 暗灰黄色土 粘性強 鉄・マンガン沈着

0 4m

第285図 第19号方形周溝墓

を指す。

北溝は、外辺西半部がごくわずかに弧を描く。内辺東部では内側へ緩やかに反り、ゆらぎの大きな東辺に繋がる北東隅は鈍角となる。溝幅は西から東へ向かって広くなり、幅0.68～0.90m、確認面からの深さ0.26mほどである。

東溝は、外辺が直線的、内辺が内側に向かって張り出している。溝幅は東から西へ向かって広くなり、幅0.70～1.36m、確認面からの深さ0.26mほどである。

南溝は、最も直線的である。幅1.52～2.05m、確認面からの深さ0.46mほどである。

西溝は、内外辺ともに直線的であるが、ごくわずかに内側へ傾いている。溝幅は南から北に向かって狭まり、幅0.92～1.43m、確認面からの深さ0.51mほどである。

周溝の埋没は自然堆積で、外周から堆積していった状況がみられる。方台部側から堆積が始まった他の周溝墓の場合には、最下層に炭化物を多く含む土壌がみられるが、本周溝墓ではみられない。

遺物は、図示したほかに、東溝南半部に壺・甕類44.8gがまとまって出土しているが、いずれも図化できない微細な破片である。

第19号方形周溝墓 (第285図)

L25・L26・M25・M26グリッドに位置し、第314・317号住居跡、第641号土壕、第47・508号溝跡と重複する。

全周タイプの方角周溝墓であるが、南溝外辺は不明瞭である。外周・方台部の平面形態は北溝・南溝が平行する台形を呈する。平行する溝は北溝が長く、南溝が短い。南群の方角周溝墓のなかでは異質な存在で、第20号方形周溝墓と周溝を交差させるような重複が行われている。

規模は、方台部が南北7.88～8.64m×東西7.50～11.10m、周溝外法が東西9.70～16.10mを測り、南北は12.08～12.50mと推定される。南北軸の方位はN-18°-Wを指す。

北溝は、内外辺ともにごくわずかなゆらぎがみられるが、ほぼ直線的である。また、北西隅は鋭角的なしっかりとした角を形成し、北東隅はやや丸味をもつ。溝幅は西から東へ向かって狭まり、幅1.84～2.14m、確認面からの深さ0.26mほどである。

東溝は、内外辺ともに直線的で、溝幅もほぼ一定している。幅1.98～2.18m、確認面からの深さ0.22mほどである。

南溝は、外辺が不明瞭で、内辺はごく緩やかに抉れている。幅1.9～2.0m前後と推定され、確認面からの深さ0.14mほどである。

西溝は、内外辺ともにごくわずかなゆらぎがみられるが、ほぼ直線的である。溝幅は南から北に向かって広がり、幅1.60～2.44m、確認面からの深さ0.51mほどである。

周溝の埋没は自然堆積である。

遺物は壺・甕類141.9gが出土しているが、微細な破片のため図示し得ない。

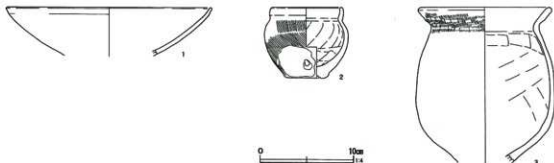
第20号方形周溝墓 (第287図)

L26・M25・M26・M27・N26グリッドに位置する。軸方向を描いた方形周溝墓が密集する区域の北端に所在する。第19・21・23号方形周溝墓および第317号住居跡と重複する。

全周タイプの方角周溝墓である。

外周形態は南北に長軸をもつ長方形である。各辺ともごく緩やかな弧を描くため、各隅とも丸味を帯びている。周溝外法の規模は、南北13.90～15.22m×東西12.98～13.82mを測る。

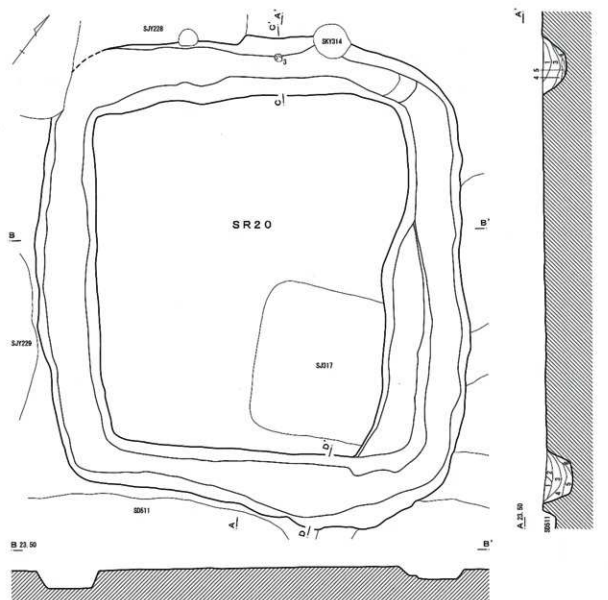
方台部の平面形態も、南北に長軸をもつ長方形を呈している。南溝・西溝は直線的であるが、北溝は外辺と同様に緩やかな弧を描いている。東溝中央付近から東溝南東隅付近の周溝内辺に沿って、幅1.24m前後、確認面からの深さ0.31mほどのテラ



第286図 第20号方形周溝墓出土遺物

第104表 第20号方形周溝墓出土遺物観察表 (第286図)

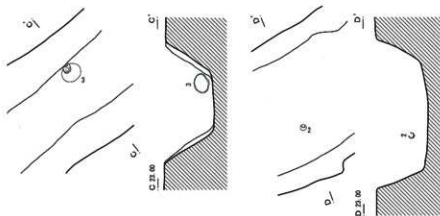
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	高坏	(21.8)	(5.1)		ABCEG	B	橙	10	風化・調整痕不明瞭
2	小型甕	7.4	7.5	7.6	ABCEG	B	にぶい黄橙	95	No2 焼成後穿孔
3	台付甕	13.6	(16.5)		BCEG	B	浅黄～橙	45	風化・調整痕不明瞭



0 4m
1:100

第20号方形周溝墓

- 1 暗褐色土
黄褐色土粒子微量
- 2 暗灰褐色粘質土
炭化物多 黄褐色土粒子多
- 3 暗灰褐色粘質土
炭化物微量 黄褐色土粒子多
- 4 暗灰褐色粘質土ブロック
+ 灰褐色粘土ブロック
炭化物微量
- 5 暗灰褐色粘質土ブロック
+ 青灰褐色粘土ブロック
- 6 にぶい黄褐色土
地山崩落土 炭化物微量



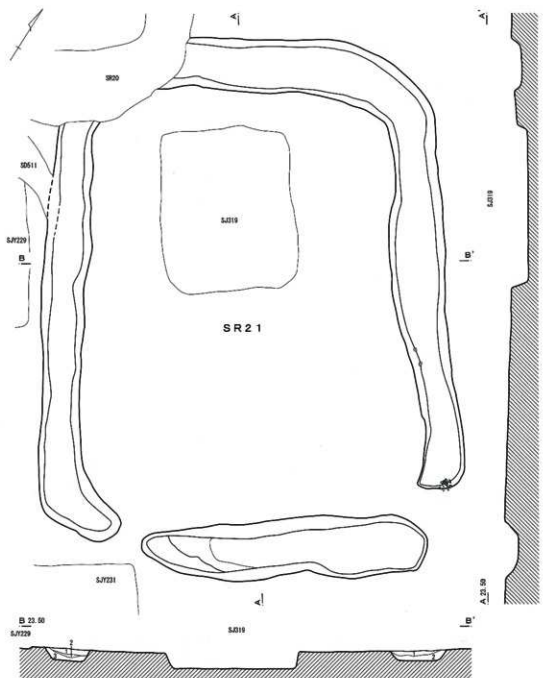
0 2m
1:100

第287図 第20号方形周溝墓

ス部が付設されている。この付近の周溝外辺は、わずかに外方に張り出している。テラス部を含めた方台部の規模は、南北10.30～11.42m×東西9.60～9.90mほどである。

南北軸の方位はN-40° -Wを指す。

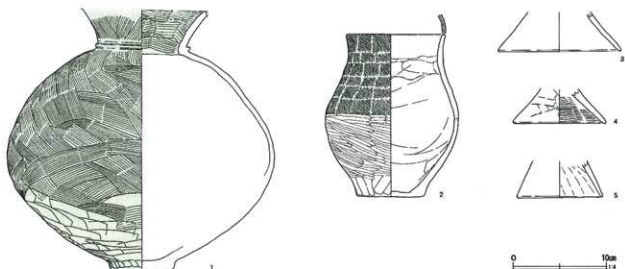
北溝はごく緩やかな弧を描き、内外辺ともごくわずかなゆらぎがみられる。溝幅は、西から東へ向かって狭まり、幅1.44～2.10m、確認面からの深さ0.66mほどである。また、北東隅付近では、溝底が段差をもって浅くなっている。



第21号方形周溝基

- 1 暗褐色土 灰褐色粘土ブロック 炭化物
- 2 暗褐色土 灰褐色粘土ブロック多 炭化物
- 3 にぶい黄褐色シルト+暗褐色土

第288図 第21号方形周溝基



第289図 第21号方形周溝墓出土遺物

第105表 第21号方形周溝墓出土遺物観察表 (第289図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	壺	(27.5)	6.0	ABCEG	B	にぶい橙	95	外面~口縁部内面赤彩痕	
2	壺	10.2	17.2	7.0	BCGI	B	明褐	90	No1 単筋RL
3	高坏	(4.2)	(12.8)	ABCEG	B	にぶい赤褐	5	風化・調整痕不明瞭	
4	台付甕	(3.7)	(9.8)	ABCEG	A	橙	5		
5	台付甕	(3.9)	(9.0)	ABCGI	B	にぶい橙	5	風化・調整痕不明瞭	

東溝は、内外辺ともにゆらぎがみられ、特にテラス部が付設されている部分は著しい。幅1.46~1.74m、確認面からの深さ0.44mほどである。

南溝は、テラス部が付設されている東端の溝幅が広く、西に向かって狭まっている。幅1.40~2.34m、確認面からの深さ0.80mほどである。

西溝は、外辺が緩やかな弧を描くのに対し、内辺は直線的である。溝幅は中央付近が広く、両端に向かって狭まっていく。幅1.40~2.02m、確認面からの深さ0.59mほどである。

周溝の埋没は自然堆積で、方台部側から堆積が始まった状況を確認することができる。下層付近には暗灰褐色粘質土ブロックがみられ、その上層には炭化物を多く含む暗灰褐色粘質土が堆積している。

遺物は、北溝中央付近外壁際および、南溝南東隅よりまとまった分布がみられる。図示したほかに、壺・甕類470.2g、碗・鉢類120.0gの図化できない微細な破片も出土している。

第21号方形周溝墓 (第288図)

M27・M28・N27・N28グリッドに位置する。軸方向を描えた方形周溝墓が密集する区域に所在し、第20・22・23・24号方形周溝墓と重複する。確認面の高さの違いから、第22・24号方形周溝墓よりも新しい。

南東・南西の二隅が切れると思われる方形周溝墓である。西溝・北溝・東溝が「コ」の字形に連結し、南溝は単独の溝である。但し、北西隅が第20号方形周溝墓と重複するため、三隅が切れる可能性も残されている。東溝・西溝の南端部は南溝に向かって屈曲している。溝が途切れるブリッジ幅は、南東隅1.12m、南西隅0.82mを測る。

外周・方台部の平面形態は、南北に長軸をもち、北溝・南溝が平行する台形気味の隅丸長方形を呈している。規模は、方台部が南北12.80~13.92m×東西9.48~11.00m、周溝外法が南北16.86~17.10m×東西12.04~13.58mを測る。南北軸の方位はN-35°-Wを指す。

北溝は、内外辺ともに直線的で、南北軸に直交するラインよりも南側に方向をとる。外辺が北東隅で弧を描くのに対し、内辺はしっかりとした角を形成している。幅1.52~1.86m、確認面からの深さ0.37mほどである。

東溝は、南端が南溝東端を意識した方向にわずかな屈曲がみられる。内外辺ともわずかに外反し、内辺中央付近の内方への張り出しは著しい。幅1.32~1.82m、確認面からの深さ0.42mほどである。

南溝は、外辺中央付近がわずかに括れている。幅1.68~1.92m×長さ9.08m、確認面からの深さ0.41mほどである。溝底は西半部に段差をもつ。

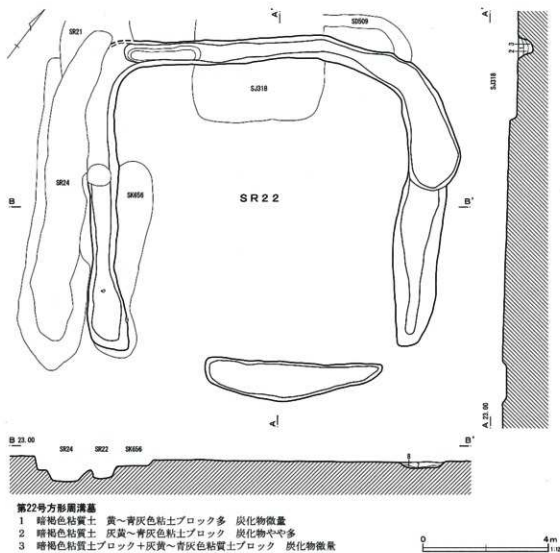
西溝は、南端部が南溝西端に向かって屈曲する。

わずかなゆらぎがみられるが、内外辺ともに直線的である。幅1.08~1.36m、確認面からの深さ0.36mほどである。

周溝の埋没は、自然堆積である。覆土の観察から、周溝の周囲から埋没していった様子が窺われる。

遺物は、東溝南半部と南端部にまとまった分布がみられる。図示したほかに、壺・甕類547.3g、高坏・器台類40.7gの図化できない微細な破片も出土している。また、モモの種子1点も発見されている。

第289図2は、壺である。外面の口縁部から胴部上半および口唇部には、単節R Lの縄文が施文されている。



第22号方形周溝墓

- 1 暗褐色粘質土 黄~青灰色粘土ブロック多 炭化物微量
- 2 暗褐色粘質土 灰黄~青灰色粘土ブロック 炭化物やや多
- 3 暗褐色粘質土ブロック+灰黄~青灰色粘質土ブロック 炭化物微量

第290図 第22号方形周溝墓

第22号方形周溝墓（第290図）

M27・M28・N27・N28グリッドに位置する。軸方向を描えた方形周溝墓が密集する区域に所在し、第21・24号方形周溝墓、第318号住居跡、第656号土壌、第509号溝跡と重複する。確認面の高さの違いから第21号方形周溝墓よりも、また覆土の堆積状況から第24号方形周溝墓よりも古い。

南東・南西の二隅が切れる方形周溝墓である。西溝・北溝・東溝が「コ」の字形に連結し、南溝は単独の溝である。溝が途切れるブリッジ幅は、南東隅0.84m、南西隅2.50mを測る。

外周・方台部の平面形態は、隅丸方形である。規模は、方台部が南北9.24～9.62m×東西8.54～9.32m、周溝外法が南北10.34～11.54m×東西10.96～11.90mを測る。南北軸の方位はN-38°-Wを指す。

北溝は、他溝に比べ幅が狭い。幅0.66～0.80m、確認面からの深さ0.43mほどである。西半部の溝底には南北0.44m×東西2.44m×溝底からの深さ0.48mほどの楕円形の掘り込みがみられる。

東溝は、方向を同じくする2条の溝が連結したような状態を呈している。北東隅から中央付近にかけて幅が広くなり、ここで一段狭まり、外辺・内辺が平行して南端部に至る。中央付近では溝底も比高差0.14mほどの段差をもつ。幅1.32～1.66m、確認面からの深さ0.36mほどである。

南溝は、外辺が緩やかな弧を描き、内辺は直線的である。幅0.64～1.26m×長さ5.64m、確認面からの深さ0.13mほどである。

西溝は、南端付近で内外辺ともに括れるほかは、直線的である。幅0.68～1.26m、確認面からの深さ0.40mほどである。

周溝の埋没は自然堆積で、粘質土ブロックと炭化物を含む暗褐色土が堆積している。

遺物は、西溝南端部にまとまった分布がみられる。図示したほかに、壺・甕類655.1gの図化できない微細な破片も出土している。

第23号方形周溝墓（第291図）

N26グリッドに位置し、軸方向を描えた方形周溝墓が密集する区域に所在する。第20・24号方形周溝墓、第7号古墳跡、第653・654号土壌、第512・513・200・231号溝跡と重複する。確認面の高さの違いから、第24号方形周溝墓よりも新しい。

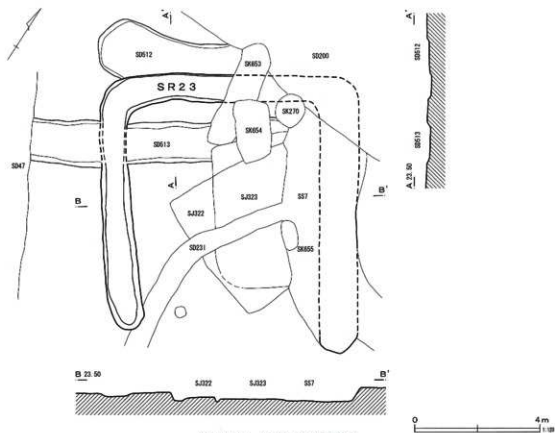
「L」字形に屈曲する北溝・西溝のみが検出されている。このような状況から、単に「L」字形に屈曲する溝跡と捉えることもできるが、調査所見では方形周溝墓として認識していたこと、南北軸方向を周囲の方形周溝墓と揃えること、軸を描えた方形周溝墓が密集する区域に位置すること、南群の方形周溝墓にはほぼ同規模のものが2基も存在することなどから、第23号方形周溝墓として報告する。

第23号方形周溝墓では、北溝東半部から東溝は第7号古墳跡をはじめ、重複する遺構によって壊されている。また、南溝が位置する付近には、溝跡が発見されていない。しかし、発見された北溝・西溝も確認面からの深さが浅く、南溝は削平されてしまった可能性もある。このような検出状況から、周溝が「コ」の字形に巡るのみで完結する方形周溝墓、もしくは四辺を巡る周溝の南東・南西の二隅が切れる方形周溝墓と推定される。ただし、南溝が位置する付近の確認面が他の遺構の影響を受けていないことから、「コ」の字形周溝の方形周溝墓となる可能性が高い。

「コ」の字形周溝の方形周溝墓と仮定した場合、外周・方台部の平面形態は方形である。規模は、西溝の長さから方台部が一辺7.3m前後、周溝外法が一辺8.1m前後と推定される。南北軸の方位はN-34°-Wを指す。

北溝は、西半部のみが検出されている。幅0.84～0.90m、確認面からの深さ0.14mほどである。西溝は、幅0.84～1.12m、確認面からの深さ0.13mを測る。

遺物は出土していない。



第291図 第23号方形周溝墓

第24号方形周溝墓 (第292図)

N26・N27・O26グリッドに位置し、軸方向を描いた方形周溝墓が密集する区域に所在する。第21・22・23号方形周溝墓、第325号住居跡、第47・517号溝跡と重複する。確認面の高さの違いから第21・23号方形周溝墓よりも古く、覆土の堆積状況から第22号方形周溝墓よりも新しい。

他の遺構との重複から明確ではないが、二隅もしくは三隅が切れる方形周溝墓である。少なくとも、南東・北西の二隅が途切れることは確実である。北東隅は第21・22号方形周溝墓と重複するため明らかではないが、東溝北端壁の立ち上がりも窺われる。

外周・方台部の平面形態は、長軸を南北方向にもつ長方形である。規模は、方台部が南北12.1m前後×東西8.5m前後、周溝外法が南北14.3m前後×東西12.0m前後を測る。南北軸の方位はN-30°-Wを指す。

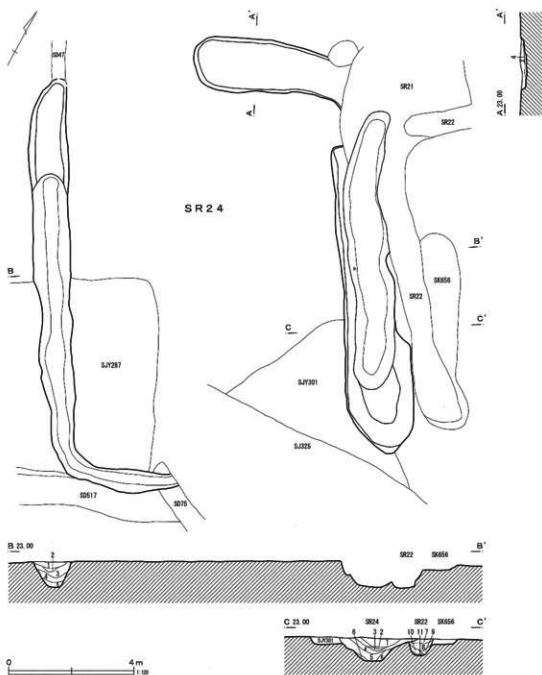
北溝は、北辺中央付近に西端壁立ち上りをもち、

北辺東半部のみが掘削されている。東端部は第21号方形周溝墓と重複する。幅1.28~1.76m、確認面からの深さ0.21mほどである。

東溝は、北端部が第21号方形周溝墓と重複する。南端部は立ち上がり、ブリッジを形成している。2条の溝が連結したような状態を呈し、「S」字形に彎曲する溝に溝状のテラス部が付設されている。「S」字形に彎曲する溝部の規模は、幅0.74~1.36m×長さ8.78m、確認面からの深さ0.77mを測る。テラス部は、最大幅2.14m×長さ9.78m、確認面からの深さ0.44mほどである。「S」字形に彎曲する溝部北端からテラス部南端までの長さは、10.78mが検出されている。

南溝は、東端~中央付近が第325号住居跡と重複し、西溝に繋がる西端付近のみが検出されている。緩やかな弧を描き、幅は他の溝に比べ狭い。幅0.44~0.74m、確認面からの深さ0.46mほどである。

西溝は、北端部の一部が第47号溝跡に攪乱され



第24号方形周溝墓

- 1 灰黄褐色粘質土ブロック+黒褐色土ブロック
炭化物微量 人為的埋戻し
- 2 黒褐色粘質土ブロック+灰黄褐色粘質土ブロック
炭化物多 人為的埋戻し
- 3 暗褐色土
灰黄褐色土粘質土粒子・ブロック 炭化物多
- 4 暗褐色土ブロック+灰黄褐色土ブロック
炭化物多量
- 5 灰黄褐色粘質土
暗褐色粘質土ブロック 炭化物 地山崩落土
- 6 暗褐色粘質土ブロック+灰黄褐色粘質土ブロック
地山崩落土

第22号方形周溝墓

- 7 暗褐色粘質土
黄～青灰色粘土ブロック多 炭化物微量
- 8 暗褐色粘質土
灰黄～青灰色粘土ブロック 炭化物やや多
- 9 暗褐色粘質土ブロック+灰黄～青灰色粘質土ブロック
炭化物微量
- 10 暗褐色粘質土
灰黄褐色粘土ブロック・炭化物微量
- 11 暗褐色粘質土ブロック+灰黄褐色粘質土ブロック

第292図 第24号方形周溝墓

ている。内外辺ともに直線的で、第Y287号住居跡と重複する南半部のゆがきが著しい。幅0.72～1.32m、確認面からの深さ0.78mほどである。

周溝の埋没は、下層の3～6層が自然堆積、上層の1・2層が人為的埋没と観察されている。下層は方台部側から埋没が始まり、覆土には炭化物を多く含んでいる。周溝がある程度埋没した段階で、灰黄褐色・黒褐色のブロックや粘質土ブロックが埋め戻されている。

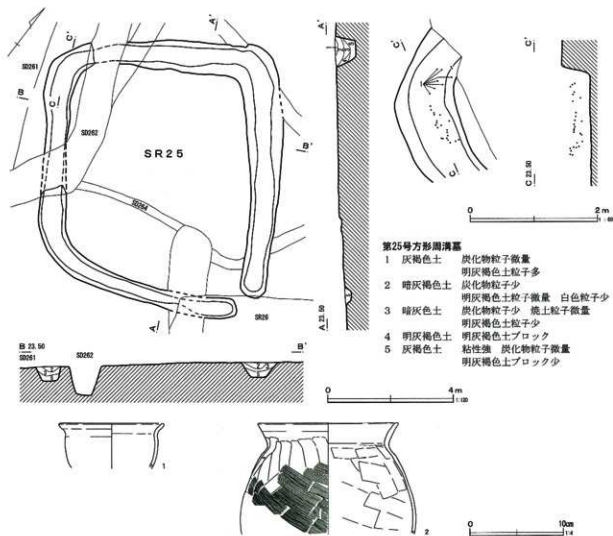
遺物は、図示したほかに壺・甕類244.5g、高

坏・器台類9.8g、椀・鉢類13.2gの図化できない微細な破片も出土している。

第25号方形周溝墓（第293図）

O26・O27・P26・P27グリッドに位置する。南東隅が第26号方形周溝墓と重複し、この南東隅が切れる方形周溝墓と思われる。ブリッジ幅は、0.40mを測る。

外周・方台部の平面形態は、東溝・西溝が平行する台形を呈している。規模は、方台部が南北6.10～7.04m×東西5.16～5.78m、周溝外法が南北



第293図 第25号方形周溝墓・出土遺物

第106表 第25号方形周溝墓出土遺物観察表（第293図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	小型鉢	(10.9)	(4.7)		ACEG	B	にしい浅黄	10	風化・調整痕不明瞭
2	方台甕	(14.7)	(11.7)		BCEG	B	にしい橙	25	No3・4・5・6・7・8・9 二次的被熱による赤色化

7.50~8.68m×東西7.54~7.72mを測る。南北軸の方位はN-36°-Wを指す。

北溝は、西端付近が第262号溝跡に攪乱されている。内外辺ともに直線的であるが、ゆらぎもみられる。北東隅は外辺がほぼ直角に屈曲するのに対し、内辺は鈍角な屈曲を示す。溝幅は西から東に向かって広くなり、0.68~1.04mを測る。確認面からの深さは0.59mほどである。

東溝は、内外辺とも緩やかな弧を描き、南先端部が第26号方形周溝墓と重複する。溝幅は北から南に向かって狭まり、0.82~1.26mを測る。確認面からの深さは0.61mほどである。

南溝は、東西軸と方向を違え、鈍角な南西隅は丸味を帯びる。内外辺ともわずかに弧を描き、東端付近で第26号方形周溝墓と重複する。幅0.52~0.72m、確認面からの深さ0.35mほどである。

西溝は、わずかに外反し、中央付近は第262号溝跡に攪乱されている。幅0.66~0.96m、確認面からの深さ0.31mほどである。

周溝の埋没は、自然堆積である。

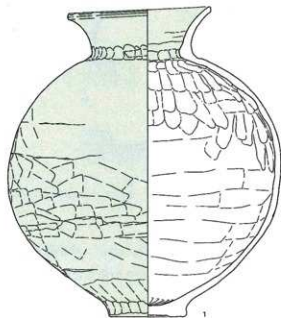
遺物は、北西隅付近にまとまった分布がみられる。床面直上のもはなく、覆土3・4層に集中する。図示したほかに、壺・甕類1075.5g、高坏・器台類33.8gの図化できない微細な破片も出土している。

第26号方形周溝墓（第295図）

P27・P28・P29・Q27・Q28・Q29グリッドに位置する。南東隅が調査区外にあるため明確ではないが、南溝東端に立ち上がりが認められることから、一隅が切れる方形周溝墓と思われる。

外周・方台部の平面形態は、北溝・南溝が平行する台形を呈している。各辺の中央付近を計測した規模は、方台部が南北11.08m×東西9.24m、周溝外法が南北15.56m×東西10.72mを測る。南東隅が調査区外にあるため東西方向の最大規模は明確ではないが、方台部13.5m前後、周溝外法15.6m前後と推定される。南北軸の方位はN-36°-Wを指す。

北溝は、北西隅で第25号方形周溝墓と重複する。

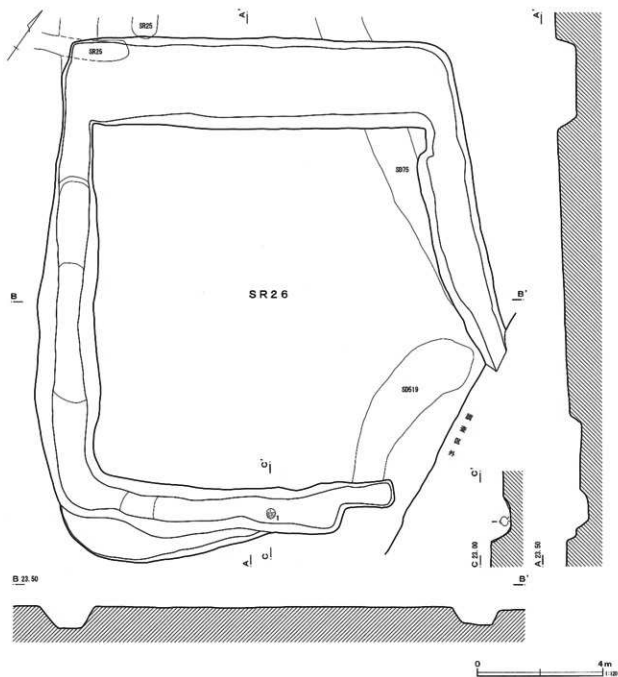


第294図 第26号方形周溝墓出土遺物



第107表 第26号方形周溝墓出土遺物観察表（第294図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	壺	14.8	32.3	8.0	BCEGI	B	橙	85	No2 外面-口縁部内面赤彩
2	壺	12.4	15.6		ABCEG	B	浅黄	30	東周溝中央



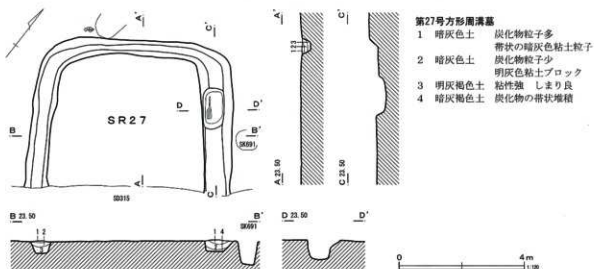
第295図 第26号方形周溝墓

内外辺ともに直線的で、ほぼ平行する。溝幅は他溝に比べて広く、2.72～2.90mを測る。確認面からの深さは0.42mほどである。

東溝は、北溝から鈍角に屈曲し、南に向かうに従って、外方に張り出す。南端は調査区外にある。外辺はごくわずかに外反する。内辺は、北東隅付近で屈曲して内側に張り出し、ここから緩やかな弧を描きながら南に向かっている。幅は北東隅1.28m、

内辺張り出し部頂点付近1.74m、検出範囲南端部1.30mを測る。確認面からの深さは0.51mほどである。

南溝は、外辺の中央付近から南西隅に沿って、幅0.45～1.26mのテラス部が付設されている。また東端付近では、外辺が「Z」字形に屈曲し、東端立ち上がりに至る。この部分の溝幅は、中央付近から南西隅に比べて狭くなっている。溝底も西端付近で



第296図 第27号方形周溝墓

比高差0.32mほどの段差をもつ。溝幅は東先端部付近が0.78m、他は1.34~1.56m、確認面からの深さ0.65mほどである。

西溝は、外辺が緩やかな弧を描き、内外辺が連動して、大きな単位のゆらぎがみられる。溝幅は南から北に向かって狭まり、溝底には所々に比高差0.09~0.24mほどの段差がみられる。幅0.96~2.12m、確認面からの深さ0.70mほどである。

遺物は、南溝中央付近から壺が倒立した状態で発見されている。図示したほかに、壺・甕類299.2gの図化できない微細な破片も出土している。

第27号方形周溝墓（第296図）

R28グリッドに位置する。

南部が第315号溝跡に擾乱され明確ではないが、北西に所在する第25号方形周溝墓と同規模で、軸方向もほぼ一致することから、第25号方形周溝墓と同様の一隅切れもしくは全周タイプの方方形周溝墓と思われる。

外周・方台部の平面形態は、第25号方形周溝墓

と同様に、南北に長軸をもつ長方形である可能性が高く、わずかに台形気味を呈している。規模は、方台部が南北4.5m以上×東西4.40~4.96m、周溝外法が南北5.0m以上×東西6.03~6.56mを測る。南北軸の方位はN-37°-Wを指す。

北溝は溝幅が狭く、0.44~0.70mを測り、確認面からの深さは0.28mほどである。

東溝は北溝からやや鈍角に屈曲し、南方に向かうに従って、わずかに外方に張り出す。幅0.76~1.06m、確認面からの深さは0.42mほどである。また北半部溝底には、方形の周溝内土壌がある。規模は、南北1.32m×東西0.66m×溝底からの深さ0.20mである。土壌西壁際には、脆弱なため取り上げることができなかったが、薄い木片が検出されている。

西溝も北溝からやや鈍角に屈曲し、南方に向かうに従って、わずかに外方に張り出す。幅0.66~0.82m、確認面からの深さは0.37mほどである。

遺物は壺・甕類131.7g、高坏・器台類24.2gが出土しているが、微細な破片のため図示し得ない。

3. 木棺墓

第1号木棺墓 (第297図)

K20グリッドに単独で発見された。土壌に直接木棺を安置した墓場で、周囲に周溝等の付属施設は検出されていない。

土壌は北壁・東壁にテラスをもつ掘形で、長軸長3.52m、短軸長1.61mを測る。平面形態が楕円形で、テラス部を有する北壁・東壁の丸みが強い。テラス部を除く箇所は、長軸長3.20m、短軸長1.23mの平面長方形を呈している。長軸軸方位はN-61°-Eを指す。底面にはわずかながらも凹凸がみられ、長軸方向では端部が窪んでいる。底面とテラス部の比高差は均一ではなく、北壁西側から東壁に向かって下りの傾斜をもつ。

木棺は刳拔式で、底部に幅0.27~0.33mの平坦面をもつことから、舟形木棺と推定される。身部のみの出土で、蓋部は消失していた。木棺の規模は、外法が長さ約2.4m、幅約0.6m、深さ約0.15~0.2m、内法が幅約0.5m前後、深さ約0.05~0.15mほどである。西端部より0.15m内側の木口部は、検出された板材や粘土から、小規模な木片を芯材にした粘土によって閉塞されていたものと推測される。

棺の安置手順は、①テラスを有する土壌掘削→②テラス部付近まで人為的に埋戻して棺安置面を整地(覆土3層)→③棺の安置→④木棺を安定させるため、棺身周囲の埋戻し(覆土2層)→⑤棺の被覆の

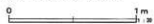
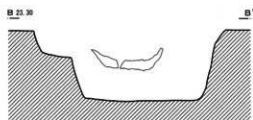
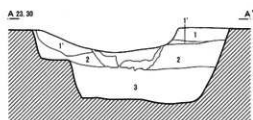
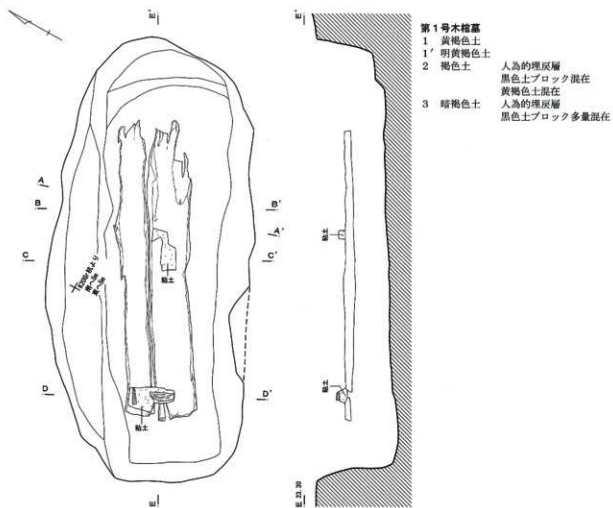
順に行われたものと推定される(③・④は順序が入れ代わる可能性がある)。棺中央部から粘土が検出されているが、棺全体を被覆していた状況は看取できない。

副葬品や供献土器等の遺物は出土していない。

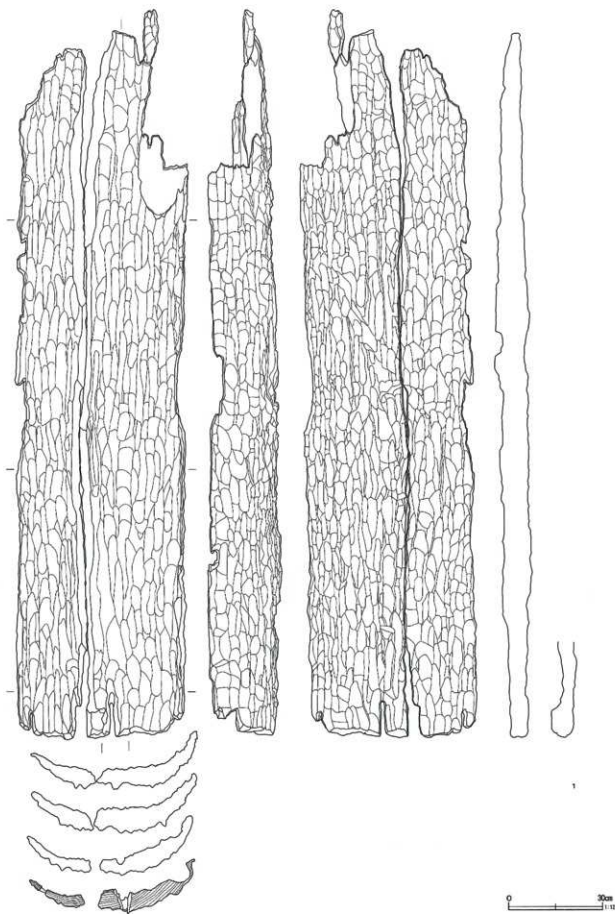
第298図1の棺身は、残存長230.4cm、厚さ8.2cmを測る。柩目方向に割れており、幅は52.5cm程度と推定される。内面は鑿によって刳り抜かれて成形され、外面には鑿による調整が施されている。樹種は、広葉樹のヤマグワ(クワ科クワ属)と同定されている。

第299図2・3は、木口部芯材に用いられていた板材である。2は、高さ4.5cm、幅13.1~14.2cm、厚さ0.9cmを測る。一辺が面取りされ、面取り幅1.6cmである。3は、高さ4.1cm、幅13.0cm、厚さ1.4cmを測る。

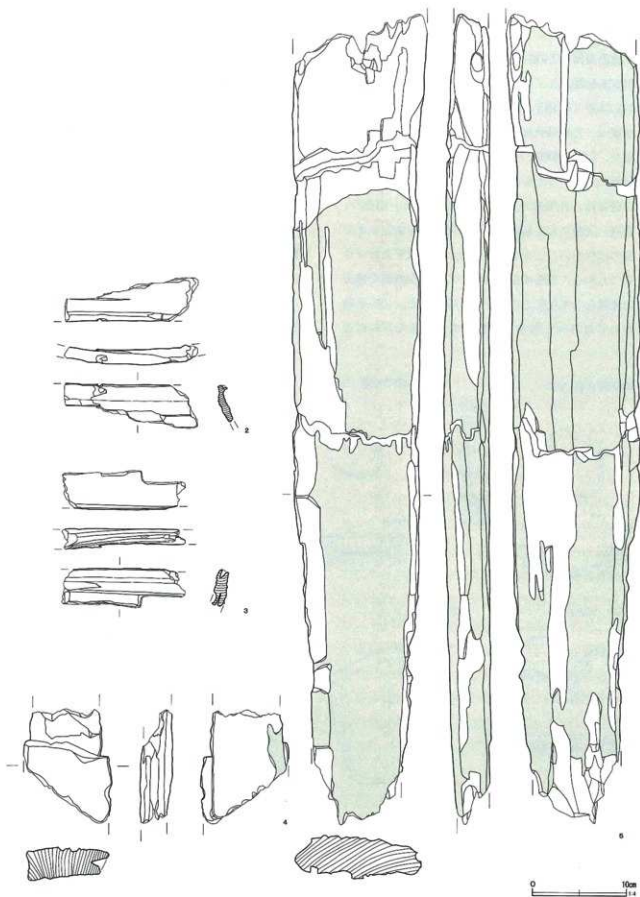
第299図4・5は、直接的な木棺材ではない。出土状況の記録が曖昧なため明確ではないが、木棺を安置する際に用いられた可能性が考えられる。ともに被熱痕が明瞭に残存し、5は顕著である。4は台形を呈した扁平材で、端部は面取りされている。残存長16.0cm、幅12.7cm、厚さ4.1cmほどである。5は幅広い棒状の扁平材で、端部は面取りされている。残存長85.4cm、幅13.7cm、厚さ4.3cmを測る。



第297図 第1号木棺墓



第298图 第1号木棺墓木棺



第299图 第1号木棺基本口材・出土木製品

4. 土壌

北島遺跡第19地点から発見された土壌は、総数790基を数える。本報告が対象とするのは、このうち214基（第498～711号土壌）である。これらの土壌は、古墳時代前期のものが主体となっている。また、『北島遺跡V』・『北島遺跡VI』において報告対象としなかったものも含んでいる。

分布は、住居跡の分布とほぼ合致する。用途や、重複・近接する住居跡との相関関係等を推定できるものは少ない。しかし、住居跡と分布域を合致させることから、当時の生活において有用な機能を備えた施設として捉えることができる。また、2～3基もしくは5～6基前後が集中する傾向もみられる

が、その規則性や性格等は明らかではない。

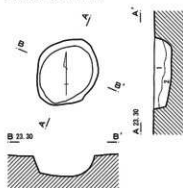
遺物を全く出土しない土壌が多く、時期を特定しうる資料に欠ける。他の遺構と重複する場合には、覆土の堆積状況からみた新旧関係から、相対年代が求められるにすぎない。また、遺物を出土する土壌においても、出土量はきわめて少ない。多くの遺物が微細な破片であり、時期を決定づけられるものが少ない。

第498号土壌（第300図）

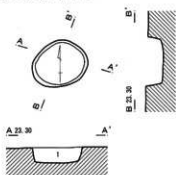
ZW21グリッドに位置する。

平面形態は、円形である。長軸長1.12m、短軸長0.94m、確認面からの深さ0.27mを測る。長軸方

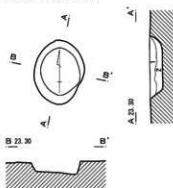
第498号土壌 (ZX21Gr)



第499号土壌 (ZX20Gr)



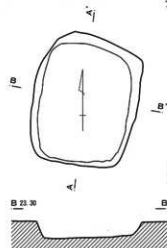
第500号土壌 (ZX26Gr)



第501・502号土壌 (ZZ22Gr)



第503号土壌 (ZZ25Gr)



第498号土壌

- | | |
|--------|-----------|
| 1 黄灰色土 | 黄灰色粒子多量 |
| | 炭化物少量 |
| 2 黄灰色土 | 黄灰色ブロック少量 |
| | 炭化物少量 |

第499号土壌

- | | |
|--------|--------------|
| 1 黄灰色土 | 黄灰色粒子・ブロック多量 |
| | 炭化物少量 |

第500号土壌

- | | |
|--------|-----------|
| 1 黄灰色土 | 炭化物少量 |
| 2 灰黄色土 | 黄灰色ブロック多量 |

第501号土壌

- | | | |
|-----------|-----------|-------|
| 1 オリーブ黒色土 | 黄灰色粒子多量 | 炭化物微量 |
| 2 灰色土 | 黄灰色ブロック多量 | |

第502号土壌

- | | | |
|-----------|-----------|-------|
| 3 オリーブ黒色土 | 黄灰色粒子多量 | 炭化物微量 |
| 4 灰色土 | 黄灰色ブロック多量 | |

第503号土壌

- | | | |
|----------|--------------|------|
| 1 灰色土 | 黒褐色粒子・ブロック少量 | |
| | 黄灰色粒子少量 | |
| 2 灰オリーブ色 | 土黄灰色粒子少量 | |
| 3 灰オリーブ色 | 土灰色ブロック多量 | シルト質 |



第300図 土壌 (1)

位は、 $N-43^{\circ}-E$ を指す。底面は、緩やかな凹面を呈している。壁は外傾気味に立ち上がる。

遺物は出土していない。

第499号土墳 (第300図)

Z X20グリッドに位置する。

平面形態は、円形である。長軸長0.88m、短軸長0.71m、確認面からの深さ0.25mを測る。長軸方位は、 $N-81^{\circ}-E$ を指す。底面は平坦で、壁は直立気味に立ち上がる。

遺物は、高坏・器台類31.5gが出土しているが、微細な破片のため図示し得ない。また、モモの種子1点も発見されている。

第500号土墳 (第300図)

Z X22グリッドに位置する。

平面形態は、円形である。長軸長1.02m、短軸長0.78m、確認面からの深さ0.20mを測る。長軸方位は、 $N-0^{\circ}-E$ を指す。底面は、緩やかな凸面を呈している。壁は外傾気味に立ち上がる。

遺物は出土していない。

第501号土墳 (第300図)

Z Z22グリッドに位置する。

平面形態は、不整形である。長軸長0.80m、短軸長0.58m、確認面からの深さ0.23mを測る。長軸方位は、 $N-28^{\circ}-W$ を指す。底面は平坦で、壁は外彎気味に立ち上がる。

遺物は出土していない。

第502号土墳 (第300図)

Z Z22グリッドに位置する。

平面形態は、不整形である。長軸長0.82m、短軸長0.60m、確認面からの深さ0.19mを測る。長軸方位は、 $N-66^{\circ}-E$ を指す。底面は平坦で、壁は外傾気味に立ち上がる。

遺物は出土していない。

第503号土墳 (第300図)

Z Z25グリッドに位置する。

平面形態は、長方形である。長軸長2.06m、短軸長1.66m、確認面からの深さ0.31mを測る。長

軸方位は、 $N-7^{\circ}-E$ を指す。底面は平坦で、壁は外傾気味に立ち上がる。

遺物は出土していない。

第504号土墳 (第301図)

A21グリッドに位置する。

平面形態は、不整形円形である。長軸長1.59m、短軸長1.30m、確認面からの深さ0.21mを測る。長軸方位は、 $N-72^{\circ}-E$ を指す。底面は、北から南へ緩やかに傾斜している。壁は外傾する。

遺物は出土していない。

第505号土墳 (第301図)

A20・A21グリッドに位置する。

平面形態は、長方形である。東西長1.14m、確認面からの深さ0.11mを測る。南北方位は、 $N-5^{\circ}-E$ を指す。底面は平坦で、壁は外傾気味に立ち上がる。

遺物は出土していない。

第506号土墳 (第301図)

B28グリッドに位置する。

平面形態は、円形である。長軸長0.82m、短軸長0.75m、確認面からの深さ0.50mを測る。長軸方位は、 $N-52^{\circ}-E$ を指す。底面は、凹面を呈している。壁は内彎気味に立ち上がる。

遺物は出土していない。

第507号土墳 (第301図)

C16グリッドに位置する。重複する第468号溝跡よりも新しい。

平面形態は、楕円形である。長軸長1.20m、短軸長0.87m、確認面からの深さ0.50mを測る。長軸方位は、 $N-17^{\circ}-W$ を指す。底面は、短軸方向が凹面を呈している。壁は、南側が外傾気味に立ち上がり、ほかは直立する。

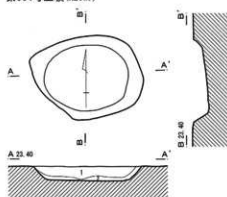
遺物は、図示したほかに壺・甕類318.5gの微細な破片も出土している。

第508号土墳 (第301図)

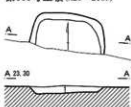
C20グリッドに位置する。

平面形態は、不整形円形である。長軸長1.48m、

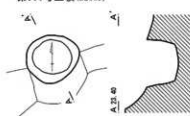
第504号土壌 (A21Gr)



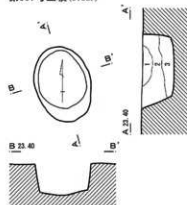
第505号土壌 (A20・21Gr)



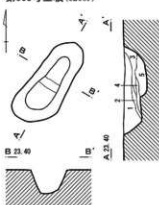
第506号土壌 (B28Gr)



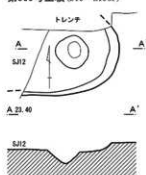
第507号土壌 (C16Gr)



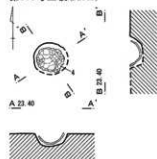
第508号土壌 (C20Gr)



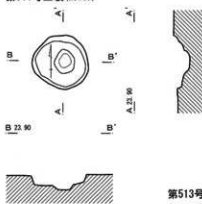
第509号土壌 (D19・E19Gr)



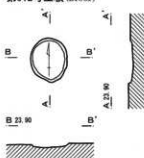
第510号土壌 (D23Gr)



第511号土壌 (E18Gr)



第512号土壌 (E15Gr)



第504号土壌

- 1 黄灰色土 灰オリーブ色ブロック少量 灰オリーブ色粒子多量
- 2 灰オリーブ色土 灰オリーブ色ブロック多量

第505号土壌

- 1 黄灰色土 黒灰色粒子多量 黒灰色ブロック少量

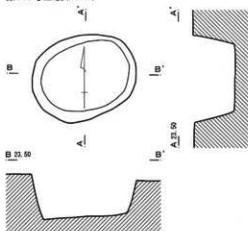
第507号土壌

- 1 暗灰色土 暗灰色粘土+灰白色粘土 しまり良 粘性弱
- 2 暗灰色土 暗灰色粘土+灰白色粘土 炭化物 しまり弱
- 3 黄灰褐色土 炭化物少量 しまり弱 粘性強

第508号土壌

- 1 黒灰色土 粘質 粘土ブロック多 炭化物多
- 2 灰黒色土 粘質 粘土ブロック多 炭化物少
- 3 黒灰色土 粘質 粘土ブロック多 炭化物やや多
- 4 暗褐色土 砂質 粘土ブロックやや多 炭化物やや多
- 5 褐灰色土 砂質 粘土ブロックやや多 炭化物やや多

第513号土壌 (E18Gr)



第301図 土壌 (2)

短軸長0.65mを測る。長軸方位は、 $N-35^{\circ}-E$ を指す。底面は、南北方向中央付近に比高差0.1mほどの段差がみられる。確認面からの深さは、0.25~0.36mほどである。壁は緩やかに外傾する。

遺物は出土していない。

第509号土壌 (第301図)

D19・E19グリッドに位置する。

平面形態は、楕円形と思われるが、重複する第12号住居跡とトレンチによって削平されているため、平面規模は不明である。確認面からの深さは、0.15mを測る。底面には、深さ0.2mほどのビット状の掘込みがみられる。壁は緩やかに外傾する。

遺物は出土していない。

第510号土壌 (第301図)

D23グリッドに位置する。

長軸長0.58m、短軸長0.55mの平面形態が円形と推定される。長軸方位は、 $N-35^{\circ}-W$ を指す。底面は平坦である。確認面からの深さは、0.20mを測る。壁は外傾気味に立ち上がる。

壺形土器が、埋設されたような状態で検出されている。近接する第8・9号方形周溝墓との関連も予想されるが、用途は不明である。

図示したほかに、壺・甕類318.2gの微細な破片も出土している。

第511号土壌 (第301図)

E15グリッドに位置する。

平面形態は、円形である。長軸長0.86m、短軸長0.82m、確認面からの深さ0.16mを測る。長軸方位は、 $N-40^{\circ}-W$ を指す。底面の中央付近には、深さ0.05mほどのビット状の掘込みがみられる。壁は外傾気味に立ち上がる。

遺物は、微細な土師器片8.7gが出土している。

第512号土壌 (第301図)

E15グリッドに位置する。

平面形態は、円形である。長軸長0.69m、短軸長0.58m、確認面からの深さ0.06mを測る。長軸方位は、 $N-15^{\circ}-W$ を指す。底面は、緩やかな

凹面を呈している。

遺物は、微細な土師器片18.9gが出土している。

第513号土壌 (第301図)

E15グリッドに位置する。

平面形態は、楕円形である。長軸長1.69m、短軸長1.31m、確認面からの深さ0.70mを測る。長軸方位は、 $N-68^{\circ}-E$ を指す。底面は、東から西へ緩やかに傾斜している。壁は内彎気味に立ち上がる。遺物は出土していない。

第514・515・516号土壌 (第302図)

E15グリッドに位置する。重複する3基の土壌で、新旧関係は第515号土壌が第514・516号土壌よりも古い。

第514号土壌は、平面形態が不整形である。長軸長1.42m、短軸長1.29m、確認面からの深さ0.08mを測る。長軸方位は、 $N-28^{\circ}-W$ を指す。

第515号土壌は、平面形態が長方形である。東西長1.13m、確認面からの深さ0.48mを測る。長軸方位は、 $N-55^{\circ}-E$ を指す。東壁にテラス部をもつ。底面は、西から東、南から北へ緩やかに傾斜している。壁は直立気味に立ち上がる。

第516号土壌は、平面形態が円形である。東西長0.57m、確認面からの深さ0.16mを測る。底面は平坦である。

遺物は、第514号土壌より壺・甕類12.0gが出土しているが、微細な破片のため図示し得ない。

第518号土壌 (第302図)

E15・F15グリッドに位置する。

平面形態は、長方形である。長軸長1.82m、短軸長1.11m、確認面からの深さは0.05mと浅い。長軸方位は、 $N-14^{\circ}-E$ を指す。底面は、南北方向にきわめて緩やかな波状を呈している。

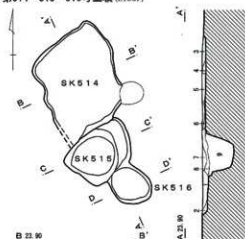
遺物は、壺・甕類47.6gが出土しているが、微細な破片のため図示し得ない。

第517号土壌 (第302図)

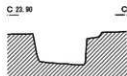
E15グリッドに位置する。

平面形態は、方形である。長軸長0.68m、短軸

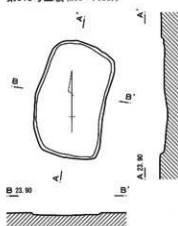
第514・515・516号土壌 (E15Gr)



B 23.90

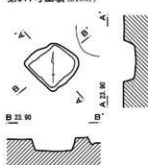


第518号土壌 (E15・F15Gr)



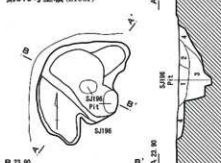
B 23.90

第517号土壌 (E15Gr)



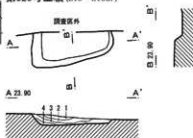
B 23.90

第519号土壌 (E16Gr)



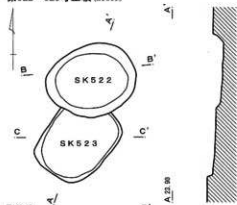
B 23.90

第520号土壌 (E15・E16Gr)



A 23.90

第522・523号土壌 (E16Gr)



B 23.90



第516号土壌

- 1 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック少
焼土・炭化物微量

2 土層未註記

第514号土壌

- 3 淡褐色土 黄褐色粘土ブロック多
- 4 暗褐色土 炭化物粒子・淡褐色粘土粒子少
- 5 暗褐色土 黄褐色粘土粒子少
- 6 黄褐色土 黄褐色粘土+暗褐色土

第515号土壌

- 7 褐色土 焼土・炭化物粒子微量
- 8 淡褐色土 黄褐色粘土粒子微量
- 9 黄褐色土 黄褐色粘土ブロック+暗褐色土

第520号土壌

- 1 暗褐色土 黄褐色土ブロック多
- 2 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック少 焼土粒子少
- 3 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック多
- 4 黒褐色土 黄褐色粘土粒子少

第519号土壌

- 1 暗茶褐色土 炭化物・焼土粒子 粘性強
- 2 茶褐色土 焼土粒子・炭化物少
- 3 暗褐色土 粘性強
- 4 淡灰褐色土 粘性強



第302図 土壌 (3)

長0.67m、確認面からの深さ0.19mを測る。長軸方位は、N-51°-Eを指す。底面は比較的平坦で、中央付近が若干の凹面を呈している。壁は外傾気味に立ち上がる。

遺物は出土していない。

第520号土壌 (第302図)

E15・E16グリッドに位置し、北半部は調査区外にある。

平面形態は、方形である。東西長1.30m、確認面からの深さ0.13mを測る。底面は平坦で、壁は外傾する。

遺物は出土していない。

第519号土壌 (第302図)

E15グリッドに位置する。第196号住居跡の北西コーナー部付近と重複する。第196号住居跡炉の検出状況から、新旧関係は第519号土壌の方が新しい。

平面形態は、不整形である。長軸長1.83m、短軸長1.38m、確認面からの深さ0.47mを測る。長軸方位は、N-41°-Eを指す。中央～北半が深く掘り込まれ、南半部はテラス状に広がる。

遺物は、図示したほかに壺・甕類234.7gが出土している。

第522・523号土壌 (第302図)

E16グリッドに位置する。重複する2基の土壌で、新旧関係は明確ではない。

第522号土壌は、平面形態が楕円形である。長軸長1.41m、短軸長1.10m、確認面からの深さ0.16mを測る。長軸方位は、N-65°-Eを指す。

第523号土壌は、平面形態が方形である。長軸長1.34m、短軸長1.06m、確認面からの深さ0.10mを測る。長軸方位は、N-37°-Eを指す。

いずれの土壌も、底面は、南から北方へ傾斜している。壁は外傾する。

遺物は、第523号土壌には磨石片が混入している。また、第522号土壌から壺・甕類42.7gが出土しているが、微細な破片のため図示し得ない。

第521号土壌 (第303図)

E15・E16グリッドに位置する。

平面形態は、楕円形である。長軸長1.18m、短軸長0.85m、確認面からの深さ0.10mを測る。長軸方位は、N-46°-Eを指す。底面は、西から東に傾斜している。壁は外傾する。

遺物は、壺・甕類7.2gが出土しているが、微細な破片のため図示し得ない。

第524号土壌 (第303図)

E17グリッドに位置する。第43号住居跡に攪乱されている。重複する第198号住居跡との新旧関係は明確ではない。

平面形態は、方形である。東西長1.46m、確認面からの深さ0.08mを測る。東西軸の方位は、N-58°-Eを指す。底面は平坦で、壁は外傾気味に立ち上がる。

遺物は、壺・甕類43.7gが出土しているが、微細な破片のため図示し得ない。

第525号土壌 (第303図)

E18グリッドに位置する。重複する第200号住居跡との新旧関係は明確ではない。

平面形態は、長方形である。長軸長1.53m、短軸長1.08m、確認面からの深さ0.09mを測る。長軸方位は、N-54°-Wを指す。底面は平坦で、壁は外傾気味に立ち上がる。

遺物は、壺・甕類26.0gが出土しているが、微細な破片のため図示し得ない。

第526号土壌 (第303図)

E22グリッドに位置する。第77号溝跡に攪乱されている。

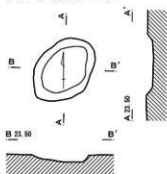
平面形態は、方形である。東西長0.87m、確認面からの深さ0.08mを測る。東西軸の方位は、N-68°-Eを指す。底面は、重複する第77号溝跡に向かって傾斜している。

遺物は出土していない。

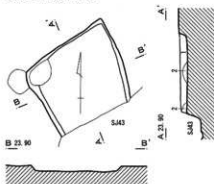
第530号土壌 (第303図)

F15グリッドに位置する。

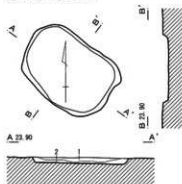
第521号土壤 (E15・E16Gr)



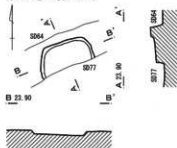
第524号土壤 (E17Gr)



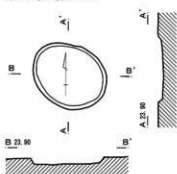
第525号土壤 (E18Gr)



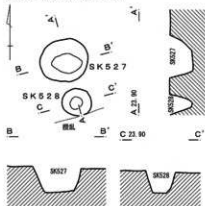
第526号土壤 (E20Gr)



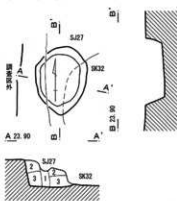
第530号土壤 (F15Gr)



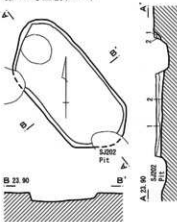
第527・528号土壤 (E22Gr)



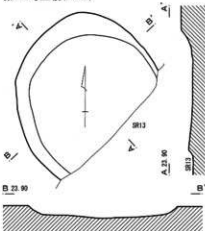
第529号土壤 (E14・F14Gr)



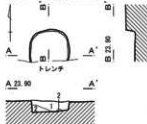
第532号土壤 (F16Gr)



第533号土壤 (F20Gr)



第531号土壤 (F15Gr)



第524号土壤

- 1 暗褐色土 黄灰色粘土ブロック微量
- 2 褐灰色土 灰白色粘土粒子少

第525号土壤

- 1 暗黒褐色土 炭化物 粘性強
- 2 黄褐色土 炭化物なし 粘性強

第529号土壤

- 1 黒褐色土 黄褐色粘土ブロック多量
炭化物少量

2 暗褐色土

- 2 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック微量

3 暗褐色土

- 3 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック多量

第531号土壤

- 1 暗褐色土 黄褐色粘土粒子・焼土粒子・炭化物粒子微量
- 2 黄褐色土 黄褐色粘土ブロック多

第532号土壤

- 1 暗褐色土 黄灰色粘土粒子多量
- 2 黄褐色土 焼土・炭化物微量



第303図 土壤 (4)

平面形態は、楕円形である。長軸長1.23m、短軸長0.99m、確認面からの深さ0.10mを測る。長軸方位は、 $N-62^{\circ}-W$ を指す。底面は平坦で、壁は外傾気味に立ち上がる。

遺物は出土していない。

第527号土壌 (第303図)

E22グリッドに位置する。

平面形態は、楕円形である。長軸長0.78m、短軸長0.67m、確認面からの深さ0.37mを測る。長軸方位は、 $N-81^{\circ}-E$ を指す。底面は平坦で、壁は外傾気味に立ち上がる。

遺物は、壺・甕類80.9gが出土しているが、微細な破片のため図示し得ない。

第528号土壌 (第303図)

E22グリッドに位置する。

平面形態は、円形である。長軸長0.48m、短軸長0.45m、確認面からの深さ0.34mを測る。長軸方位は、 $N-90^{\circ}-E$ を指す。

遺物は出土していない。

第529号土壌 (第303図)

E14・F14グリッドに位置する。重複する第27号住居跡・第32号土壌よりも古い。

平面形態は、楕円形である。長軸長1.06m、短軸長0.82m、確認面からの深さ0.21mを測る。長軸方位は、 $N-0^{\circ}-E$ を指す。底面は平坦で、壁は外反気味に立ち上がる。

遺物は、壺・甕類17.0gが出土しているが、微細な破片のため図示し得ない。

第531号土壌 (第303図)

F15グリッドに位置する。南半部をトレンチによって削平されている。

平面形態は、隅丸方形である。東西長0.62m、確認面からの深さ0.17mを測る。南北軸の方位は、 $N-0^{\circ}-E$ を指す。底面は平坦で、壁は直立気味に立ち上がる。

遺物は、微細な土師器片13.5gが出土している。また、歯・骨片等も検出されている。分析の結果、

ヒトの上下顎歯牙と判明し、年齢30歳前後の男性のものとして推定されている。

第532号土壌 (第303図)

F16グリッドに位置する。重複する第202・203・204号住居跡、第480号溝跡との新旧関係は明確ではない。

平面形態は、楕円形である。長軸長2.26m、短軸長1.10m、確認面からの深さ0.11mを測る。長軸方位は、 $N-40^{\circ}-W$ を指す。底面には、きわめて緩やかな凹凸がみられる。壁は外傾気味に立ち上がる。

遺物は、壺・甕類156.1gが出土しているが、微細な破片のため図示し得ない。

第533号土壌 (第303図)

F26グリッドに位置する。重複する第13号方形周溝墓との新旧関係は明確ではない。

平面形態は、隅丸長方形である。長軸長1.87m以上、短軸長2.38m、確認面からの深さ0.18mを測る。長軸方位は、 $N-43^{\circ}-W$ を指す。底面には、きわめて緩やかな凹凸がみられる。壁は外傾気味に立ち上がる。

遺物は出土していない。

第534号土壌 (第304図)

G13・G14グリッドに位置する。

平面形態は、長方形である。長軸長1.18m、短軸長0.90m、確認面からの深さ0.17mを測る。長軸方位は、 $N-30^{\circ}-E$ を指す。底面は、きわめて緩やかな凹面を呈している。壁は外傾気味に立ち上がる。

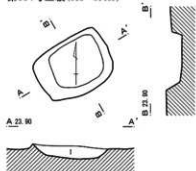
遺物は出土していない。

第535号土壌 (第304図)

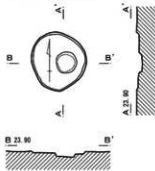
G15グリッドに位置する。重複する第213号住居跡よりも新しい。

平面形態は、円形である。長軸長0.90m、短軸長0.87m、確認面からの深さ0.05mを測る。長軸方位は、 $N-34^{\circ}-W$ を指す。底面の中央付近には、深さ0.03mのビット状の掘込みがみられる。

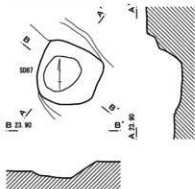
第534号土壤 (G13・G14Gr)



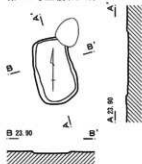
第535号土壤 (G15Gr)



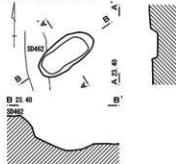
第536号土壤 (G16Gr)



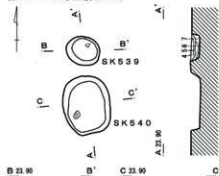
第537号土壤 (G17Gr)



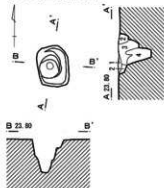
第538号土壤 (G20Gr)



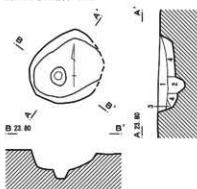
第539・540号土壤 (G28Gr)



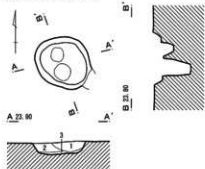
第541号土壤 (H13Gr)



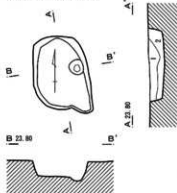
第542号土壤 (H13Gr)



第544号土壤 (H13Gr)



第543号土壤 (H13Gr)



第534号土壤

- 1 暗褐色土 黄褐色土ブロック
炭化物・焼土粒子

第540号土壤

- 1 暗褐色土 炭化物 細砂粒多
2 暗灰褐色土 灰色シルトブロック 炭化物

第539号土壤

- 4 灰色粘土ブロック+暗褐色土
5 暗褐色土 粘質土 炭化物 焼土粒子
6 暗褐色土 粘質土
7 灰褐色土 粘質土 炭化物粒子

第541号土壤

- 1 黒褐色土
2 明黒褐色土
3 黒色土 炭化物粘土微量
4 黒褐色土

第542号土壤

- 1 褐色土 炭化物粒子少 白色微粒子少
2 褐色土 炭化物粒子多 焼土粒子多
3 暗褐色土 炭化物粒子微 白色微粒子少
4 灰黄褐色土 炭化物粒子微 白色微粒子少

第544号土壤

- 1 暗褐色土 炭化物粒子少 白色微粒子少
2 暗褐色土 暗褐色土+灰色粘土
3 明灰褐色土 炭化物粒子微

第543号土壤

- 1 褐色土 炭化物粒子少 白色微粒子少
2 黄褐色土 炭化物粒子微 白色微粒子微

第304図 土壤 (5)



壁は外傾気味に立ち上がる。

遺物は出土していない。

第536号土壌 (第304図)

G16グリッドに位置し、第87号溝跡と重複する。

平面形態は、方形である。長軸長1.00m、短軸長0.98m、確認面からの深さ0.25mを測る。長軸方位は、N-60°-Wを指す。底面は、重複する第87号溝跡壁に向かって傾斜する傾向がみられる。

遺物は出土していない。

第537号土壌 (第304図)

G17グリッドに位置する。

平面形態は、長方形である。長軸長1.04m、短軸長0.64m、確認面からの深さ0.04mを測る。長軸方位は、N-11°-Wを指す。底面は平坦で、壁は外傾気味に立ち上がる。

遺物は、微細な土師器片5.3gが出土している。

第538号土壌 (第304図)

G20グリッドに位置し、第464号溝跡と重複する。

平面形態は、楕円形である。長軸長0.97m、短軸長0.45m、確認面からの深さ0.16mを測る。長軸方位は、N-55°-Eを指す。底面は、中央に向かって窪んでいる。

遺物は、壺・甕類5.9gが出土しているが、微細な破片のため図示し得ない。

第539号土壌 (第304図)

G28グリッドに位置する。

平面形態は、楕円形である。長軸長0.54m、短軸長0.44m、確認面からの深さ0.13mを測る。長軸方位は、N-72°-Wを指す。底面は平坦で、壁は外傾気味に立ち上がる。

遺物は、壺・甕類12.3gが出土しているが、微細な破片のため図示し得ない。

第540号土壌 (第304図)

G28グリッドに位置する。

平面形態は、方形である。長軸長0.91m、短軸長0.75m、確認面からの深さ0.16mを測る。長軸方位は、N-12°-Wを指す。底面は平坦で、一

部、大地震に伴う液化現象による噴砂の影響を受けている。壁は外傾気味に立ち上がる。

遺物は、壺・甕類10.6gが出土しているが、微細な破片のため図示し得ない。

第541号土壌 (第304図)

H13グリッドに位置する。中央の円形ピットや覆土の堆積状況から、古代の掘立柱建物跡柱穴である可能性がある。

平面形態は、方形である。長軸長0.65m、短軸長0.50m、確認面からの深さ0.52mを測る。長軸方位は、N-10°-Wを指す。

遺物は、壺・甕類11.4gが出土しているが、微細な破片のため図示し得ない。

第542号土壌 (第304図)

H13グリッドに位置する。中央付近の円形ピットや覆土の堆積状況から、古代の掘立柱建物跡柱穴である可能性がある。

平面形態は、楕円形である。長軸長1.23m、短軸長0.98m、確認面からの深さ0.42mを測る。長軸方位は、N-40°-Eを指す。

遺物は出土していない。

第544号土壌 (第304図)

H13グリッドに位置する。中央付近の円形ピットの位置や深さ、断面の形状から、古代の掘立柱建物跡柱穴である可能性がある。

平面形態は、円形である。長軸長0.90m、短軸長0.81m、確認面からの深さ0.60mを測る。長軸方位は、N-39°-Wを指す。

遺物は出土していない。

第543号土壌 (第304図)

H13グリッドに位置する。

平面形態は長方形で、南東コーナー部が張り出ししている。長軸長1.15m、短軸長0.88m、確認面からの深さ0.30mを測る。長軸方位は、N-9°-Wを指す。底面は平坦で、東壁中央部に浅いピットが張り込まれている。壁は外傾気味に立ち上がる。

遺物は、壺・甕類35.4gが出土しているが、微細